



# Anchor アンカー

INSIDE

- 巻頭言 2  
イスラム教について 4  
これから起こる世界大戦 16  
クリスチャンは、イスラムと  
同じ神を礼拝しているか 31  
創世記1章の研究 37  
牧師たちと福音宣伝者たちへの証 42

69号

2024年 2月





アンカー誌はまだですかとの連絡がありながら、こんなに遅れてしまって申し訳なく思っています。

2024年を迎えました。新年早々、石川県でM7.6の大地震—津波があり、翌日日航機と海上保安機との衝突事故に日本中の人が驚愕したと思います。日航機大失火から全員脱出しました。二つのことから学んだ教訓は、まさかのために準備すること、日ごろの訓練が必要であることでした。

2027年は、人類歴史の終わりということ学ばされている我々は、最終時代の時に住んでいることは重々知らされています。ほんとに信じているか、実感しているかはまた別問題です。

古代イスラエルは、ソロモンの建てた豪華なエルサレム神殿を誇りにしていました。預言者エレミヤは「北＝バビロン」からの侵攻を何回も警告していました。エレ1:13、14、4:6。

「主の言葉がふたたびわたしに臨んで言う、『あなたは何を見るか』。わたしは答えた、『煮え立っているなべを見ます。北からこちらに向かっています』。『シオンの方を示す旗を立てよ。避難せよ、とどまってはならない、わたしが北から災と大いなる破滅をこさせるからだ』エレ 4:6。エレミヤはラッパを吹いて警告しました(6:1)。

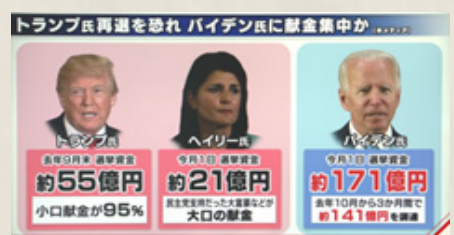
しかし、神の民の反応はどうだったでしょうか。「彼らは、手軽にわたしの民の傷をいやし、平安がないのに『平安、平安』と言っている」(6:14)。... あなたがたはわかれ道に立って、よく見、いにしえの道につき、良い道がどれかを尋ねて、その道に歩み、そしてあなたがたの魂のために、安息を得よ。しかし彼らは答えて、『われわれはその道に歩まない』と言った(6:16)。わたしはあなたがたの上に見張びとを立て、『ラッパの音に気をつけよ』と言った。しかし彼らは答えて、『われわれは気をつけることはしない』と言った(6:17)。

「南の王＝イスラム」について知ることが非常に重要なので、それを及川吉四郎牧師の記事から掲載しました。わが教会にさえ有名な牧師、伝道者が、イスラムのアラーの神と聖書の神は同じと言っている人たちがいます。

今度のアンカー誌は、ダニエル 11:40～12章にかけての特集としました。「北の王＝ローマ法王教」と「南の王＝イスラム」。しかし、記事を書き始めると、連想することが次々と出てきて、細かいことは飛ばして、各駅停車でなく、特急で記事を書きましたので、今後の皆様の研究の刺激になったらいいと思います。

現代の「北の王＝ローマ法王教」が「美しい地」、霊的なエルサレムに向かって侵攻しているのを見ます。わが教会の背教は悲しい状態です。信徒には知らされないことが実際には起こっています。預言者 E. G. ホワイトは、わが教会の危機と沈下が最高の時に神が介入なさると言っておられます。日曜休業令が非常に近づいています。

今年は「選挙イヤー」とも言われています。11月の米国大統領選挙は世界に激変を与えると世の評論家も言っています。バイデン大統領とトランプ前大統領の一騎打ちとなるのでしょうか。今のところトランプがトップを切っていますが、どうなるでしょうか。選挙費用はトランプは50億、イエズス会バイデンは170億円という。どんな急変が起こるか分かりません。いずれにせよアメリカは「龍のように物を言う」(立法、および司法権の活動)大争闘下 161と預言されています。



「もしトラ」として「ほぼトラ」いうキーワードが使われるようになっていきます。どっちが勝っても混乱は起きる？トランプは、①2021年1月に起きた連邦議会襲撃事件の扇動、②大統領退任後の機密文書の不正な持ち出し、③ジョージア州で2020年の大統領選挙の結果を不当に覆そうとした疑い、④不倫疑惑のみみ消し、という4つの犯罪の被告として検察に起訴されています。また、バイデン大統領も息子の罪で起訴されています。

一旦、日曜休業令が立つと終わりに向かって急速に動くと言っています。E. G. ホワイトは言っています。世界情勢ばかりでなく、自然災害もますますひんぱんに起き、「災害の季節」に入ると預言者は言っています。フランシスコ教皇のアジェンダ(課題)が全世界に向けられています。グリーンサンデー、カーフリーサンデー、ワー

クフリーサンデー、ファミリーサンデー... サンデー＝日曜日を高揚する動きが目立ってきています。壊れゆく地球を「グレートリセット＝再構築」するローマのアジェンダは、世の人々を魅了するものです。「人手によって」、人知を尽くして、滅びから救われようとする人間の努力は無駄に終わるでしょう。タイム誌に皆で一緒にという記事がありました。みんなで「世界共通の家」を作ろうとのフランシスコ教皇の訴えは、回勅三回にわたって出されました。ラウダーテ・シー、フラテッリ・トゥティ、ラウダーテ・デウム。みんな世の人々の望む良いことが書いてあります。



日曜休業令は、神の民にとって永遠の運命を決定する「最後のテスト」です。それがバビロンのドラの平野でイスラエルに礼拝が強要されたようなことが起これば、神も介入なさり、力を現わされます。いつでしょうか？ ラオデキア教会に神がまもなく、後の雨/大なる叫びを注いで「北の王＝ローマ法王教」と戦うときが近づいています。

「神の抑制のみたまは今世からとりさられつつある」とE.G. ホワイトは言っておられます。イザヤは「見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあられる」(イザヤ60:2)と言っています。

創世記は、すべての起源を記していますが、聖書を理解する基礎が書かれています。地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにありと始まっていますが、また、「暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう」とイザヤは言っています。そういう中で、神が創造されたことを人間は破壊していくことが黙示録の7つのラッパ、7つの災害で見ることができます。

創世記の始めのどうしても理解できなかったことを砂川満氏が「英語で聖書を学ぶ」で説明していることが非常によく説明されているので、彼のYouTubeから拝借して記事にしました。

神が暗くなっていく世に、ご自分の光を輝かせる時が非常に近づいています。光のうちに歩んでいきましょう。

イエス様は、私たちのために栄えある神のみ座からわびしいこの小さな地球に罪を犯してしまよっている人類を救うために下って来られました。永遠の命を与えるために十字架でご自身の命を捨てて、死に勝利し、復活された方は、今、滅びつつある、地球、人類を救うために、天の至聖所で大祭司として最後の贖いの働きをしておられます。



「すべての人を照すまことの光があって、世にきた」ヨハネ 1:9。

この地球の悲惨を誰よりも嘆いておられるのは創造主、贖い主イエス・キリストです。

この地球を、人類を「グレート・リセット」できる方は、この方しかいません。

「罪のために創造主が受けられた苦しみを思う人は非常に少ない。全天はキリストと苦しみを共にしたが、しかしその苦悩はキリストが人性をとって現われたときに始まったのでもなければ終わったのでもない。十字架は、罪が初めてあらわれたときから神の心に生じた苦痛を、われわれの鈍い感覚に示すものである。人が正しいことから離れるたびに、残酷な行ないをするたびに、人性が神の理想に到達できないたびに、神は悲しまれるのである。イスラエルが、神から離れた当然の結果として、敵に征服され、残虐と死という災難がふりかかったとき、『主の心はイスラエルの悩みを見るに忍びなくなった。』『彼らのすべての悩みのとき、主も悩まれて、...いにしえの日、つねに彼らをもたげ、彼らを携えられた』教育 311。

サンライズミニストリー代表 金城重博





# イスラム教について

及川吉四郎牧師

※上記の写真はサウジアラビアの「メッカ（マッカ）」にあるカーバ神殿。モスク全体をあわせると約 100 万人を収容できる。

今回、紹介する記事は故及川吉四郎牧師の記事である。理由は、

1. 今日、ハマスとイスラエルの戦争が大きな話題になっている。それが、ダニエル 11:40～の「終わりの時の大戦」に発展する火種となるのではないかと懸念する預言の研究者たちがいる。ハマスはイスラム教の過激派の一つ。イスラム教の信者のことをムスリムという。アンカー誌 46 号に「世界支配を狙う二大勢力」として記事を書いたように、近未来に世界最小の国、バチカンとその同盟諸国とイスラムと（同盟諸国）が対決するという預言がある（ダニエル 11:40～45）。

**世界のイスラム人口は約 20 億**で、バチカン（カトリック）人口は約 13 億と言われている。

「2010 年時点、イスラム教徒（ムスリム）はキリスト教徒 21.7 億人に次ぐ 16 億人（世界総人口比 23.4%）を数え、**2020 年には 19 億人**（同 24.9%）、2030 年には 22 億人（同 26.4%）に達する見込みとなっており、2070 年にはキリスト教と並び世界で最も信者数の多い宗教となる見込みである」。 <https://www.google.com/search?q>

「イスラム教徒のいない国はほぼない」と言われるほど急増しているようだ。

イスラム教は血筋にこだわった「スンニ派」とムハンマドの言行理解を重視した「シーア派」の 2 つに大きく分類できる。また過激派と穏健派に分け

る人もいる。

過激派にアルカーイダ、ヒズボラ、ハマス、タリバーン、ISIS とか、…いろいろ国によって過激派の団体の呼び方が違う。

**ちなみに、日本においても急速に**増えているという。日本に住むムスリム（イスラム教徒）が増えている。在日ムスリムを研究する早稲田大学の店田廣文名誉教授らの調査によると、推計で **20 万人を超えた**。1999 年に全国で 15 カ所だった礼拝所「**モスク**」も、2021 年 3 月に **113 カ所に増えた**という。2023/05/06

もし、イスラム対ローマ法王教（カトリック）の戦いが展開するならば、イスラム教について知ることは非常に大事である。



2. また、**イスラム教の神と聖書の神は同一で**

**ある**と教えているキリスト教会の学者もいる。

アッラーはキリスト教の神と同じ神だ。セブンスデー・アドベンチストの教会にも、**ドワイト・ネルソン**牧師、**ジョン・カーター**公衆伝道者などはアッラーの神は、聖書絶対唯一神、エホバの神と同じであると力説している。



アッラーは宇宙の創造主



アッラーはキリスト教と同じ神



### 3. もし、イスラムとローマ法王教との対決—

戦争があるとすれば、日本も巻き込まれることは否めないだろう。

そこで、及川牧師の記事はイスラム教とはどんな宗教かということを理解するのに重要であるので紹介したい。「日本人の宗教心」の最後に付録として書かれたものである。

#### 故及川吉四郎牧師著「日本人の宗教心 P.303～327、補遺

— 神教について～ユダヤ教・キリスト教・イスラム教より

では、イスラム教はどのようなのでしょうか。イスラム教も世界の創造主を神とする点において、ユダヤ教・キリスト教と同じように見えます。

また聖書のはじめの部分、創世記から申命記までは、これを神の啓示と認める点においても同様です。

そしてその結果、アダムからアブラハムまでの父祖たちを神の預言者として認めている点では、ユダヤ教とキリスト教は共通しています。その意味では、イスラム教とユダヤ教・キリスト教は兄弟のような関係にあるといわれても、しかたがないことかもしれません。

では、これらはなぜ似ているのか、またちがうというなら、どこがどうちがうのかが明らかにされなければならないと思います。

まず注意したいのは、信仰の対象が世界の創造主であるというのに、その神をイスラム教では「アッラー」と呼びます。これは聖書にはない呼称です。もちろんこれは、アラビア語であり、意味は「イラーハ＝神」という意味であり、それに定冠詞アルがついたものといえますから、単なる異なった民族の異なった呼び方ということにもなり、別に問題とすることではないようにも思われます。

しかし、「アッラーのほかには神はない」というコーランの言葉のように、イスラム教徒の意識としては、アッラーを唯一絶対とすることによって、イスラム教をユダヤ教・キリスト教に比べ、より優れた神と

しているふしがあります。

それに、イスラム教の預言者観が問題です。先にも述べましたように、イスラム教では、アダムからアブラハムまでは、正統な預言者としています。しかし、モーセからあとの預言者たちは、偽預言者とはいわないまでも、本流から外れた傍系垂流<sup>ぼうけいありゅう</sup>の存在としていることです。(直系から分かれ出た系統、二流)

たとえばモーセ、彼は神から何べんも叱られているのではないか、これは彼が神の預言者として正しく行動していない証拠ではないかというのです。彼以後の預言者たちも同様であるというわけです。それは、イスラエルの民は、しばしば偶像礼拝をおこなって神の怒りをかっている。これは当時の預言者たちが、民を正しく教え導いていなかったからだというわけです。

これに対して、イスラム教の開祖マホメットは、神がお立てになった最大の預言者であって、モーセの不完全また未完成の働きを完成し、預言者としての使命を仕上げるために起こされた真の預言者であるというのです。その意味でマホメットは、アブラハムの真の後継者であり、アブラハム以後、後にも先にもない、最大かつ最後の預言者であると主張しています。

ではキリストについては、どう考え、どうしているのかということですが、イスラム教ではキリストをモーセと同レベルの預言者と認めはしても、神また救い主と認めることはしません。その理由はこうです。イスラム教が最も強く主張するのは、神の唯一絶対性にあります。ところが、キリストを神とみとめるなら、それは多神教になってしまい、偶像の神を認めることにもなりかねない。そうした理由から、これを神とみとめることなどできることではないというのです。

まして、十字架にかけられて殺された者が、どうして救い主などでありえよう、というわけで、キリストを預言者の一人と認めはしても、神また救い主とすることには強く反対しています。

#### イスラム教の起こり

ユダヤ教・キリスト教が起こったのは、地中海の

ほとりパレスチナですが、イスラム教発生の地はそれより南西のアラビア半島です。そのため、この宗教は砂漠の宗教などともいわれています。



**教祖はマホメット**（正しくはムハンマド）という人です。彼はいったい、どんな人物であり、どんなにしてこの宗教をはじめたのでしょうか。彼が生まれたのは、紀元570年ごろとされています。ですから、キリストより6世紀も後の人ということになります。

**彼の家は商家**でしたが、父は彼が生まれる前に旅先で亡くなり、母は彼が六歳の時に世を去っています。そのため彼は祖父の保護を受け、のちに叔父に引き取られて12歳のときまで、隊商の手伝いをさせられていました。



そのうち彼は、**富裕な未亡人ハディージャに雇われ**、彼女の代理人となって働いていましたが、彼の人柄と商才が認められ、彼女から望まれて、**この未亡人と結婚**しています。この時、**彼は25才**でしたが、**ハディージャは40才**でした。こうして彼は一躍資産家になったわけですが、家庭は円満であり、子どもにもめぐまれ、二男四女を儲けています。

ところで、彼が**40歳ぐらいのとき**といわれていますが、何か宗教的な迷いでもあったのでしょうか、メッカの近くのヒラー山の洞窟にこもって、瞑想にふけていました。

あるとき、**ガブリエル**という天使が彼にあらわれ、文書を彼に示して、「これを読め」と告げたのです。彼は無学で読み書きができなかったので(当時はそれが普通)、「わたしは読むことができません」というと、その天使が声高らかにそれを読誦したという。この話を聞いた人々は、彼が悪霊に憑かれたのであろうと思いました。けれども**彼の妻は、これを神のお告げと信じて、彼を励ました**といひます。

こうして彼は、新しい宗教を提唱する者となった

わけですが、その背景として、この地方の宗教的事情を知る必要があると思います。

## イスラム教の神アッラーとはどんな神か

当時のメッカは、交易の要衝であり、あらゆる国から商人が集まってきて住むようになり、**偶像の神々が氾濫**していました。なんでも**300以上もの偶像の神々**が祀られていたと言われます。

じつは、シカゴ大学のJ・M・キタガワ教授によると、古来からアラビアに存在していたホバアルと呼ばれる神が、メッカでも崇拝をうけていたという事実があり、**カアバ**にはその偶像も残っているという。ある学者は「このホバアルこそアッラーの原型だ」といっています。

これはイスラム教の学者中村廣治郎氏(東大名誉教授)も「イスラム教入門」という著書の中で、同じような指摘をおこなっています。

**「アッラーの名はムハンマドの時代にすでにカアバの主神として一神教に近い神格をもち、メッカの人々にさまざまな恩恵を与える神として知られていた」。**

これで見ると、**イスラム教の信仰の対象である神アッラー**は、一神教と主張していたとはいえ、**メッカに祀られていたさまざまな神々の中の一つにすぎないものであった**ことがあきらかです。

しかも、その中に「**ハニーフ**」という**一神教的信仰を奉ずる一派**がありました。これは、古い時代からユダヤ教やキリスト教の影響を受けて形成された教えであったと言われます。というのは、**紀元70年**神の都エルサレムがローマ軍によって滅ぼされた際、多くのユダヤ人が故国を離れ、南下してその一部がアラビア半島に逃れ、商業都市として栄えていたメッカのあたりに住み着いていたようです。

彼らの信仰は、とうぜんこの辺りの宗教に影響をあたえ、さまざまな偶像信仰の中に、この一神教の信仰が仲間入りすることになったわけです。ただしそれは、かなり**異教化された一神教**で、**純粋なユダ**



ヤ教キリスト教の一神教とはあきらかに区別されなければならないのはいうまでもないことです。

そしてまた **356年**、東ローマ皇帝 **コンスタンティヌス2世**が、キリスト教の伝道団をオマンなどに送り込み、この地方のキリスト教化をはかっていきます。ですから、「**世界の宗教5・イスラム**」の著者は、こう指摘しています。

**「メッカにはキリスト教徒の来往する者は多かった。イスラム神学がユダヤ教、キリスト教と深い関連をもつのは、こうした時代からの反映でもある」**(同書 46 頁)。

この指摘は、シカゴ大学の **J・M・キタガワ教授**にもみられます。

**「回教(イスラム教)は、倫理、終末論、儀礼、宗教法とあらゆる面に渡ってユダヤ教とキリスト教の影響を受けている」**(「東洋の宗教」309 頁)。

しかし、**イスラム教が一神教**というのなら、ユダヤ教・キリスト教の神と同じ神ではないのかと思う人があるかもしれません。だが、そうではありません。**じつはそれは、ユダヤ教やキリスト教の神観を真似たということ**であって、同じ神ではないわけです。神観は似ていても、それは偶像神であることにはかわりないからです。

しかも、**マホメット自身**、隊商だったとき、エジプトやパレスチナに出向いた際、ユダヤ人やキリスト教徒と接触し、彼らから聖書の神について話を聞き、この**一神教の信仰に大いに共感をいだいた**ことが知られています。彼によってはじめられたイスラム教が、偶像信仰の盛んなアラビアに起こった宗教であるにもかかわらず、偶像を憎み嫌って、徹底的にこれを排除するようになったのは、まさに彼がユダヤ教やキリスト教の神に共感したことが、その背景となっていたのです。

その結果彼は、故郷のメッカに盛んであったさまざまな神の中から、**一神教を主張していた「ハニーフ」のアッラーを自分の神とすることを選択し、他の偶像の神を排除するはたらきを大々的に展開した**のでした。

しかし、大部分のメッカの人々は、マホメットを狂人扱いしたばかりか、唯一神アッラーだけを神とする主張は、政治的バランスが破られることにもなりかねない。またカーバ諸神を否定することは、部族自身の解体を招くことにもなるとの恐れから、**マホメットに対する排斥**がはげしくなりました。

そのため彼は、**メッカを追われ、隣町ヤスリブ(メジナ)に逃れ、そこに居を構えて布教をはじたのですが、ここでは彼の教えが何の抵抗もなく、よるこんで受け入れられたのでした。**その結果、かれはヤスリブにおいては、**宗教のみか政治的権力をも掌握し、軍事力をも組織して、宗教共同体を確立する事に成功**しました。



**630年**に、彼は一万の軍隊を指揮して**メッカに攻め入り**、これを占拠しました。そして、カーバから偶像をすべて破壊し排除して、アッラーの神だけを拝むように仕向け、こうして彼は、**右手に剣、左手にコーランのかたちをとり、これをアッラーのための戦い、すなわちジハード(聖戦)**と称して、他部族を次々と征服し、**アラビア全土をイスラム教化した**のでした。

彼はユダヤ教とキリスト教に対しては、同じ一神教ということで親近感を持っており、兄弟の交わりを強く望んだのですが、彼らからは受け入れられず、そればかりか異端的宗教として拒否されました。そのため、彼はこれまでとは逆に、**ユダヤ教・キリスト教に、はげしい憎しみと敵愾心**を抱いて対立するようになりました。

## イスラム教の経典コーランには：

**「ユダヤ人並びにキリスト教徒を、親しい友としてはならない」とあるばかりか、これらについて「サルまたブタとされた者」と告げられています。**

ですから、イスラム教徒はいまでも、ユダヤ教や

キリスト教をそのように呼んで、憎しみを掻き立てているようです。

イスラム教の神アッラーは、同じ一神教であるところから、ユダヤ教やキリスト教の神とは、呼び方の違いだけで、対象は同じ神のように思っている人がほとんどではないかと思われます。しかし、イスラム教の神アッラーは聖書の神と同じ神ではないことが、わたしがこれまで述べてきたことによって、お分かりいただけたことと思います。

これまで述べてきたことのくりかえしになりますが、アッラーという神は、マホメットがこれを説く以前から、アラビア人によって奉ぜられていた神であり、しかも一神教とはいえ、カーバに祀られていたさまざまな偶像の神々の中の一つであったのですから、やはり偶像神の一種であったことは否めません。

ただマホメットは、ユダヤ教やキリスト教の教えを聞き、神を唯一人とする信仰にいたく共鳴し、これにならうために、カーバ神殿に祀られている諸神の中から、一神教を主張するアッラーの神を選び取り、これを自分の神としたということであったのです。ですから、同じ一神教でもユダヤ教やキリスト教の神と同じ神ではあり得ないことを、明確に認識する必要があります。

このことは、イスラム教化してのちのカーバ神殿に、いまも黒い聖石が祀られており、巡礼者はこれを礼拝することが巡礼の目的になっていることでもわかります。そこにある黒い石は、以前偶像教徒の信仰の対象となっていたものでした。これは隕石であるといわれています。アラブ人はもともと、石を神聖視し、これをさまざまな霊鬼の依り代として、怖れ、またあがめていたのでした。

これをマホメットは、むかしからメッカに伝承されている緒儀式と共に、この聖石をも採用して崇拝の対象としたものようです。

これについて、シカゴ大学のJ・M・キタガワ教授は、次のように説明しています。

**「そのため、今に至るまでその異教的色彩にもかかわらず、回教以前の儀礼も、ほとんど昔日に近い**

**姿で残され、伝えられることになった」**（『東洋の宗教』310頁）。

とくに、聖石が彼らの信仰の対象とされていることについては、「イスラム教史」の著者嶋田襄平氏が、このようにいっています。

**「マホメットはアラブの多神教と偶像崇拝とを一掃したが、アニミズム（注＝靈魂崇拜）は根絶させられるどころか、それは形を変えてイスラムの信仰の底流にとどまり、そのまま現在まで伝えられているのである」。**

現在、聖地エルサレムにある岩のドームも同様です。そこにある岩は、マホメットが天に挙げられるとき、この石の上から昇ったと伝えられていること、これも目に見える物体を神聖視する信仰のあらわれであり、やはり偶像信仰の名残をとどめるものというほかはありません。

## イスラム教の経典コーランははたして神の啓示か

イスラム教の最大の問題点は、神よりの啓示に関するものです。これはマホメットが、ヒラー山の洞窟にこもって瞑想に耽っていた時に与えられたといわれていますが、このとき天使ガブリエルによって示された書板、これが後にコーランというイスラム教の経典になったとされています。

しかし、問題はこの啓示がたしかに神からのものかどうかにあります。そのころアラビア半島には、以前から一種のデーモン（妖鬼）が信じられていて、いろいろに変化して、人間に悪戯をしたり、危害を加えたりする者として恐れられていたというのです。当時メッカの住民は、この砂漠に住む霊鬼すなわちジンはアッラーと密接な関係を持つものと考え、人々は大神アッラーの同類として、このジンにも丁寧な貢ぎ物をするのが習慣となっていたといえます。

マホメットは最初、突然啓示を受けたとき、アッラーからのものとは信じられず、これは一種のデーモン（妖鬼）からのものではないかと疑い、自分は憑き物に魅入られたのではないかと、たいへん怖れ、思い悩んだあげく、山野を彷徨して、ついには絶望



のあまり、何度も崖から身を投じて自殺を企てたとさえいわれています。

このジンのことは、当然のことながら聖書には何も述べられていません。しかし、コーランにはこのジンのことがはっきり記されています。すなわち、コーランには神と人との間に位置する存在として、天使・サタン・ジンの三つがあげられています。けれども、神がこのジンを用いて啓示を与えることなど、あるわけがなく、マホメットにあらわれたという天使ガブリエルも、これはジンの偽装としか思われません。したがって、マホメットが与えられた啓示というのは、神からのものではなく、むしろサタンまたはサタンと同類の存在からのものとみるほかはないように思います。

彼が啓示を受けたのは610年といわれており、読み書きのできなかった彼は、口頭でそれを信者たちに語り伝え、つとめてこれを暗誦するようにさせたようです。しかし、マホメットが亡くなってのちは、人々の記憶がうすれていくようになり、お告げもしだいに失われていくことが心配されるようになりました。そのため、これを経典にまとめることが提案されました。人々の中には聞いたことをメモしていた者もあったでしょう。そうした記憶やメモなどを蒐集(しゅうしゅう)(集めること)することになったわけです。こうして集められた資料というのは、皮革や石片、椰子の葉やラクダの肩骨かたこつ等に記された断片の寄せ集めでした。

これがコーランの内容が著しく雑然としており、配列も不統一でまとまりのないものとなっている理由と思われる。そこで、これをもっとまとまりのあるものに整える必要を感じ、再度の結集がはかられたのですが、テキストが完成したのは651年のことでした。

しかし、コーランの読み方は、アラビア語表記法のもつ特徴から、発音符や母音符の付け方で読み方が変わってくるといわれます。読み方が変われば意味も変わる。そういうことで、結果として最初七種の読み方があったようです。そのうち、ある読み方はしだいに廃れていき、失われてもいきました。

読み方の統一が可能になったのは、二十世紀に

なってからのこととされています。それは印刷術の普及によるものでした。

そんなわけですので、コーランは神の啓示といわれてはいますが、たといそうであったとしても、その啓示がどれだけ正確に伝えられているものかは、定かではありません。

さきにも引用した東大名誉教授の中村廣治郎氏は、「イスラム教入門」のなかで、このように指摘しています。

**「現行のコーランが啓示されたままの言葉を一字一句忠実に伝えたものであるということ積極的に証明するものは何もない。むしろ、そうでない可能性のほうが強い」。**

そのうえ、言葉遣いがあまりにも粗野であることがとても気になります。それは「べらんめえ口調」とでもいったような語り口が特徴としてみられます。たとえば

「ええ呪われろ、よるとさわると他人の陰口、宝を山とためこんで暇さえあれば銭勘定、これだけあればもう不老不死と思ってか、いやいや漬し釜に叩き込まれる身の定め」(1041-1～4)。

といったぐあいです。これが神の啓示の言葉とは到底思われません。ですから、「世界の宗教5」には、こんなふうに説明されています。

**「これらの激情的な言葉、激しい調子の言葉は当時砂漠の民のなかに生きていた原始的な巫者かななぎしやと同じものであった。奇怪な風体をした男にえたいのしれぬ神が乗り移る。神の依り憑いたその男は、形相さまざま、さまざまの託宣の言葉を吐いてゆく。マホメットの初期の啓示もそうした風のものであった。もっとも彼は長衣につつまれて啓示を述べたと言われるが、そのためマホメットはメッカの人びとかななぎしやに巫者の一人と理解されていたのだった」(66頁)。**

ここに言われているように、マホメットの受けた啓示というのは、たしかに天使ガブリエルを装ったジンからのものであり、ジンは悪霊の仲間ひょうりと思われるので、それはシャーマニズム(憑霊現象)によるものであったとしか思われません。

それかあらぬか、マホメットは彼の教えを何回か変更しているようですが、その変更自体を神からの新たなお告げによるとしています。

そんなこともあってか、後年コーランが結集されてからは、コーランの句を引用する際には、かならず「神かくのたまわく」という前置詞をつけねばならぬようになったといわれています。

仏典の経文の冒頭が、きまって「如是我聞」の語ではじまっていますが、これは釈迦の教えでないもので、あたかも釈迦の直説とするための策であることは周知の事実です。(「このように私は仏から聞いた」の意)

コーランもそれとよく似ています。マホメットの啓示も、じつは彼自身の恣意的思いつきにすぎないものであったため、たびたび変更を余儀なくされたということではないでしょうか。それを後代になって、彼の教えを永久不変の啓示とするために、「神かくのたまわく」という語を冠するようになったものと思われます。

啓示それ自体が、このようであるとするならば、イスラム教の神アッラーを、聖書の神と同一の神とみなすことはできませんし、したがってイスラム教をユダヤ教・キリスト教と兄弟関係の宗教との見方に対しては、はっきりこれを返上させていただかねばなりません。

## マホメットははたして神のお立てになった預言者か？

ところでイスラム教は、アダム、ノア、アブラハムを正統な神の預言者と認めますが、モーセからあとの預言者は正統とは認めず傍系の預言者にすぎないとしています。(直系から分かれ出た系統)

その意味でユダヤ教は、神によって立てられ、用いられた宗教ではあっても、その教えは不完全であり、未完成の宗教であるとしています。またキリスト教については、神の教えの本流から外れて、逸脱した宗教であるといっています。

これにたいしてイスラム教は、ユダヤ教の未完成の教えを完成し、キリスト教の逸脱した宗教を本道

に引き戻す教えであると主張します。教祖マホメットは、そのために、神によって起こされたまことの預言者、アブラハムのあとを継ぐ正統の預言者、後にも先にも存在しないもっとも偉大な預言者としています。

しかし、彼がほんとうに神の預言者かどうか、それはきわめて疑わしいといわざるをえません。なぜなら、彼の受けた啓示とされるコーランの説くところは、聖書の教えと一致せず、調和もみられないどころか、全然相違しているからです。

それに、彼自身は自分を超人化するなんらの主張も振る舞いもなかったにかかわらず、彼が死んだのちになって、人々のあいだに、これを超人化する主張や動きがでてくるようになりました。

彼に関する伝説の中に、記憶のうすれによる事実との相違もあれば、なかには現実と空想の混同などもある。また、迷信的作り話などが伝承の中に付加されていったということもあります。

たとえば、人類の祖アダムが、臨終にあたってマホメットを預言者に選んだのだと言った、事実としては到底ありそうもない話なども伝承されているようです。

イスラム教は本来、メッカが神殿のあるところであり、聖地とされているはずなのに、ある時期エルサレムに向かって礼拝がおこなわれていたのです。これは彼らが一時、エルサレムを占拠したことがあったという事実によるものかもしれませんが、じつはそこに岩のドームがあり、この岩はイスラム教にとって、聖なる岩とされていることによるようです。

というのは、この岩にかんして次のような伝承があるのです。マホメットの宣教10年の7月27日の夜、あるときマホメットは、突如天馬に乗ってメッカからエルサレムに運ばれていき、そこから昇天したと伝えられています。そのとき、天界が七層界にわかれていて、彼はアダムやアブラハムのいる天界の、さらにその上の最上界に引き上げられ、そこで直接神と対面したというのです。このように、アッラーに直接会ったのは、預言者の中でマホメットただひとりであると、彼らは主張しています。

しかも、そこでマホメットはアッラーに対する礼

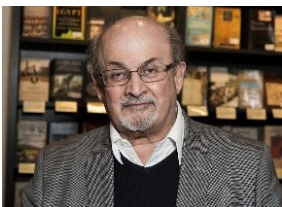


拝について、アッラーの要求する礼拝の回数を、神と取引し、許しを得てそれを一日五回に減らしてもらったというのです。

ところで、マホメットがアッラーと面接するため、現在聖石とされている岩の上に立って、そこから昇天したというのですが、その岩のドームのあるところが今も聖地とされているわけです。しかもイスラム教は、たびたびの聖地争奪戦によって、ついにそこを確保し、今もここに固執して一步もゆずろうとしない。それは、かつてマホメットが、そこにある岩の上に立ち、そこから昇天して神と会ったという伝承があるからなのです。

しかし神との対面、これがマホメット個人の見た夢、またまぼろしの中のことがらというのならともかく、現実起こった出来事と見なすことは、とてもできることではないのです。これはあきらかな、でっちあげの伝説としかいいようがありません。それにも拘らず、彼らがこれにこだわりつづけるのは、マホメットをして、モーセやキリストにまさる預言者であるとする彼らの主張の根拠、またそれを権威付けるための拠りどころとしているためと思われま。マホメットを、アブラハムにつぐ、最も偉大な歴史上最後の預言者とするイスラム教徒の信仰というのは、こういった伝承の上に成り立っているのです。

ところで、イスラム教徒は、教祖マホメットを偉大な預言者とするだけではなく、その権威を絶対的なものとし、これに反対したり、軽んじたりすることを、あたかも神を冒瀆する行為とおなじにみなします。そしてこれを犯罪として処罰したりもするのです。



1989年サルマン・ラシュディという作家が「悪魔の詩」という本を著したとき、その中で預言者マホメットをペテン師と呼んだということで、ホメイニ師から死刑を宣告され、命を狙われましたが、この本を翻訳したというだけで、筑波大学の五十嵐一助教授が、大学の研究室の前で、何者か

より凶器で惨殺されています。

ついでさきごろも、アメリカでマホメットを揶揄的に映像化したということで、これに対する抗議また復讐の意味で、アメリカの大使ほか数人が襲撃され、殺害や負傷者が出たという事件がありました。



※ 補足：ウイキペディアより：アメリカ同時多発テロ事件は、2001年9月11日にイスラム過激派テロ組織アルカ



イダによって行われたアメリカ合衆国に対する4つの協調的なテロ攻撃 [4][5][6]。9.11事件と呼称される場合もある [7]。アメリカの歴史上、最も多くの消防士と法執行官が死亡した事件。

## キリスト教は：

これが、例えばキリスト教の場合ならどうでしょう。キリストは、人々からむち打たれたり、つばを吐きかけられたりして、さんざん侮辱されていますが、キリスト教徒はこれにたいして、叛乱を企てたり暴動を起こしたりということはありませんでした。

これは聖書に、人々のあいだの不正や悪事は、すべて神がおさばきになるのであるから、人がかかって先走ってさばくことをしてはならないと、教えられているからです。(コリント人への第一・4：5)。

そのため、神なるキリストが侮辱され、殺されてさえも、暴力的復讐などは、まったくみられなかったというのに、イスラム教では、神ではなく、一預言者が侮辱されたというだけで、暴力によって復讐をするというのは、どう考えても、まったく異常な振る舞いというほかはありません。

これをみても、預言者マホメットに対するイスラム教徒の信仰は、狂信以外のなにものでもなく、したがってマホメットを神の預言者とすること自体、正常な信仰といえるものかどうか、はなはだ疑問です。

## イスラム教に救い主はあるのか

イスラム教では、マホメットが最も偉大な預言者とされていますが、いったい預言者とは何なのでしょうか。預言者は神の真理を託されてこれを民衆に伝え、それにもとづいて人々を教え導くのが本来の役割であって、預言者自身は救い主ではないのです。

ですから、たとえば聖書に出てくる預言者、アブラハムにしてもモーセにしても、その他多くの預言者がいましたが、これらの人々も、神が人類に約束された救い主について預言をし、この救い主を信じてその来臨を待望するように、人々を励まし、教え導くのが、その使命であったのです。

ですから、イスラム教のように、かりにマホメットを預言者のひとりで見なすことにするとしても、すくなくとも彼自身が救い主であるわけでは、まったくありません。マホメット自身、自分を救い主と主張したという事実は何もないのです。

では、マホメットが救い主でないとする、イスラム教には救い主は存在しないのでしょうか。そのとおりなのです。イスラム教の教えの中には、救い主というものは存在しません。それは当然のことなのです。なぜならそれには次のような歴史的背景があるのです。

## アブラハムからどうしてアラブ民族とユダヤ民族が？

マホメットの出身地アラブ民族は、先祖がユダヤ民族と同じセム族のアブラハムという人です。その意味では、両民族はたしかに、親戚関係にあることになります。しかし、宗教的にはまったく相容れないあいだがらというほかはありません。それはどうということかと言いますと、次のような因縁またいきさつがあるのです。

彼らの先祖アブラハムは、ノアの洪水後、殆どの人が神から離れ、不信または偶像礼拝に陥ってしまったときにも、天地の造り主を神とする信仰をかたく保っていました。そのため神は、彼を偶像礼拝の地から連れ出し、彼に次のような約束をお与えになったのです。

「わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう」（創世記 12：2）。

ところが、彼の妻サラは石女<sup>うまづめ</sup>であったため、アブラハムは**正妻サラ**のすすめに従い、彼女の奴隷の女であった**ハガル**によって子どもをもうけたのです。そしてこれに、**イシマエル**と名づけました。彼はこの子を自分の後継者にし、神の約束を継がせようと考えたのです。しかし、この子について神はいわれました。

**「彼は野ろばのような人となり、その手はすべての人に逆らい、彼はすべての兄弟に敵して住むでしょう」（創世記 16：12）。**

これは神が、奴隷の女によって産んだイシマエルを、神の約束の子とはお認めにならなかったということなのです。しかも、この**イシマエルの子孫**が、のちのアラブ人なのですから、神のこの預言は、こんにち、**アラブ人によって文字どおり成就している**ということになります。現にわれわれが見ているとおりです。これは、なんとも不思議な感じさえします。

それはともかくとして、神はアブラハムにたいして、はじめの約束を再度くりかえして、こう言われました。

**「わたしはあなたに多くの子孫を得させ、国々の民をあなたから起こそう。また王たちもあなたから出るであろう。わたしはあなた及び後の代々の子孫と契約を立てて、永遠の契約とし、あなたと後の子孫との神となるであろう」（創世記 17：6, 7）。**

これは神が、イシマエルを神の約束の子と認めることを拒まれたことを意味し、しかもアブラハムと彼の子孫を、神の選民とするのお約束でもあるのです。そして神は、次のようにも言われました。

**「神は彼に言われた、『あなたの妻サラはあなたに男の子を産むでしょう。名をイサクと名づけなさい。わたしは彼と契約を立てて、後の子孫のために永遠の契約としよう』（創世記 17：19）**

すなわち**アブラハムの正妻サラから生まれたイサクが約束の子**なのであって、神は彼の子孫によって



人類救済の計画を遂行し、成就することを再確認されたということになるのです。

そして、このイサクの子孫がユダヤ民族であって、しかも救い主イエス・キリストは事実、ユダヤ人の間に生まれて、人類救済の業を成し遂げられたのです。

このようにみてきますと、神がアラブ人の中に、救い主をお遣わしになるということは、ありうるはずがないばかりか、イスラム教の創始者マホメットは、イシマエルの子孫アラブ人であることからして、聖書の教えからすれば、彼が神のお立てになった預言者と見なすことも到底できないということになるわけです。

もちろん、そのアラブ人も、個人としては、われわれと同じように神の救いの対象とされているのは、いうまでもないことですが…。

## イスラム教に救い主は存在しないとすると？

さて、キリスト教の前身であるユダヤ教は、神が約束されていた救い主キリストがこの世にお現れになったとき、これを拒んで抹殺したのですから、彼らはもはや神のお用いになる器ではなくなったわけで、そのため神の選民どころか神の棄民となってしまうのです。

他方、イスラム教は神の遣わされた救い主を、それとは認めようとせず、これを脇へ押しやって傍系(ぼうけい)(直系から分かれ出た系統)の一預言者とし、マホメットこそがアブラハム直系の真の預言者であり、モーセもイエスも成し遂げ得なかった神の救いを、完成し成就するために神によって興された真の宗教であると主張しますが、神の救いの経緯を歴史的にみて、それはまったくありえない話であることが、だれの目にも明らかだと思います。というのは、聖書にこう記されているからです。

「神を見た者はまだ一人もいない。ただ父のふところにいるひとり子なる神だけが、神を現したのである」(ヨハネ福音書 1:18)。

世界の創造者なる神は、無限絶対の御方であって、

被造物であり、有限なる存在にすぎない人間は、これを見ることも覚知することもできない。神のひとり子なる御方だけが、この神を世に現したというのです。しかもイエスはこのようにも仰せになりました。

「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。もしあなたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。…わたしを見た者は、父を見たのである。」(ヨハネによる福音書 14:6, 7, 9)。

なぜなら「わたしと父とは一つである」からだというのです。(同 10:30) これではっきりしたと思います。有限者なる人間は、無限者なる神を見ることはできない。しかし天の神は、その神を誰もが知ることができ、また見ることもできるようにしてくださったというのです。それは直接神から遣わされた神の子・救い主イエス・キリストによるというのです。

ということは、キリストによらずしては、だれひとり神を知ることを見ることができはしない、ということでもあるのです。

そうすると、この救い主を拒んだユダヤ教によっては、ほんとうの意味で神のみ旨を知ることができず、ましてやキリストを、神また救い主と認めないイスラム教によっては、天の神を見ることも知ることさえも出来はしないということになるわけです。

では、この神のお立てになった救い主を持たないイスラム教徒は、どのようにして神の前に立ち、神の救いを得ようとするのでしょうか。

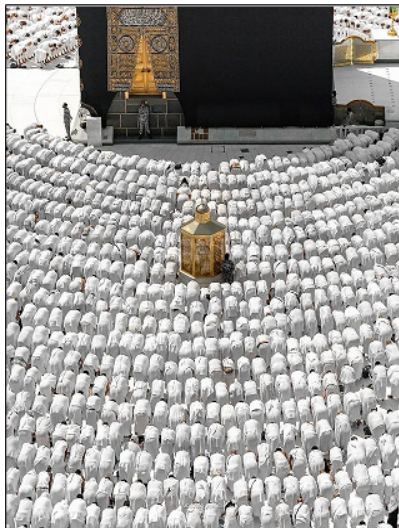
イスラムというのは「神への絶対的な服従」を意味します。アッラーの神は専制君主であり、われわれ人間の上に起こることはすべて神のご意思であり、われわれはただ、この神のご意思を絶対として受け入れ、これに無条件で全的に従うほかはないというのが、イスラム教徒の信仰なのです。

このことは、イスラム教徒の礼拝の姿によく現れている、と指摘する学者もいます。たとえば、早稲田大学の教授であった河面仙四郎という方が、彼らの礼拝についてこのように述べています：

「頭を地上に投げ、顔面を伏せ、地中に滅入らばかりのイスラム教徒の態度は、まさに暴君に対する奴隷の戦々恐々たる態度である。イスラムの神は専制君主的な近づくことのできない者であるが故に、人間は彼の前にただ平伏叩頭するのみで、衷心の思いを彼の前に披瀝することができないのである」（『宗教概論』363, 364頁）。（土下座したり、地面に頭をつけたりすること）

「イスラムにあって、神と人との関係はキリスト教やユダヤ教のように、人格的、精神的、倫理的相互関係ではなく、不可解な専制的権力に対する平伏である」（同右 365頁）。

※イスラムの意味：唯一絶対である神に服従すること



ずばり的に射た指摘といわねばなりません。これが救い主のない仲保者ぬきの神信仰の実態なのです。

この世のすべては、神の定めのままに推移しているのであって、人間はただこれにいやおうなく従っていくほかはないということになるわけですから、これはまさに絶対的宿命論ということになりましょう。



**ユダヤ教・キリスト教・イスラム教は同類ではない!!**

ユダヤ教のラビ、トケイヤー氏に、ある人がつぎのように質問しました：

「ユダヤ教の信じる神と、イスラム教の信じるアッラーの神は同一と考えていいのですか」これに対してトケイヤー氏は、こう答えています。「もしユダヤ教の神がイスラム教でいう神と同じなら、なぜイ

スラム教が必要でしょうか」。

もっともな言い分です。だが同時にまた、こうも言えようかと思えます。イスラム教の神はユダヤ教の神とは違うからこそ、別の宗教として開創する必要があったのであろうと。

世界的に著名なキリスト教の神学者エミール・ブルナー博士が来日されたとき、ある講演会後の質疑応答の席で、日本の宗教学者のひとり、小池長之氏が「キリスト教とイスラム教とは、共通点がおありだと思いませんか」と尋ねたのにたいしてブルナー博士は「キリスト教とイスラム教には、共通点はありません」と断固として答えたというのです。

以上によって、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教、この三つは、宗教学的には同じ一神教とはいえず、信仰的にはまるっきりちがうということがおわかりいただけたでしょうか。

これらは、いずれも啓示の宗教であることを主張していますが、最終的・究極的神の啓示は、神が人となられた御方であるイエス・キリストにほかならないのですから、この御方を抜きにした教えは、真の神の啓示とはいえないわけです。のみならず、ほんとうの意味における救いは、人間を神から隔絶させている罪の解決が絶対不可欠です。これは身代わりの刑罰、すなわち贖罪以外にはありえないわけですから、その意味では、イエス・キリストの十字架をそっこのけにしたユダヤ教もイスラム教も、神の宗教でないことは明白です。とすると、結論として、同じ一神教であっても神の是認なざる宗教は、キリスト教一本にしぼられたことになるわけですが、あなたはこの点、どう思われますか。

「この人による以外に救いはない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」（使徒行伝4：12）。

## むすび

世界を創造し、これを統治なさる方は唯一人、その御方を神とするのが、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教といわれます。



だが、この神は無限絶対者ですから、有限なる人間は、神を直接覚知したり認識したりはできません。それは、神からの啓示によるほかはないのです。しかも、最終的決定的啓示は、神が人となられた御方「神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿」（ヘブル人への手紙 1：3）といわれるイエス・キリストにほかならないのです。

ところが、ユダヤ教はこのキリストを拒んで十字架に架けて殺してしまったのです。**ユダヤ教**は正統の宗教でありながら、**未完の宗教**といわれるゆえんです。

**イスラム教**も、このキリストを神また救い主とは認めず、単なる一預言者扱いにし、そのかわりにマホメットを立てて、この地上における最大にして、しかも最後の預言者とし、彼を神の教えの完成者であると主張しています。

これに対して、キリスト教は、キリストを神の最終にして決定的な神の啓示者と認め、しかもこの御方を、神がお立てになった救い主として受け入れています。当然のことながら、彼の**十字架・復活を信じ、彼の再臨**を神の救いのみ業を完成する大いなる出来事として、これを切に待ち望んでいるのです。

ではあなたは、どれをあなたの信仰の対象となさるおつもりでしょうか。あなたの賢明な選択を、心

から願わずにはられません。

友人からのメール：

<https://www.catholicnewsagency.com/resource/55994/the-sabbath-or-the-lords-day>

ドクターファイトの動画に出てくる catholic news agency の記事です。動画には日付が 2024 年の 1 月 30 日と出てきます。ほぼ間違いなく、世界総会の大争闘プロジェクトを意識したものです。カトリックは我々を知っています。日本の牧師の殆どは自分たちが包囲されていることをどれだけ知っているのでしょうか？ローマ教皇フランシスコは、来年は第一回ニケア会議の記念の聖年（ジュビリー）としています。アメリカの大統領選が今年ありますが、共和党を中心にプロジェクト 2025 を考えています。逆の方向に見えますが、イエス様を十字架につけることにパリサイ人とサドカイ人が手を組んだように最後は大争闘に書かれているように、日曜休業令に向かうと思います。アメリカ保守キリスト教もアメリカ道徳や倫理の面から日曜日の強調を行っていますし、ラウダート・シやラウダートデウムは、地球環境問題から日曜日を主張するでしょう。世界経済フォーラムや COP を見ても、世界の足並みが揃わない。その打開には日曜日礼拝や遵守はキリスト教のみならず、多くを取り込むと思います。

ご自宅で聖書研究ができます

毎週の説教動画、セミナー等更新中。  
無料書籍も閲覧可能です。  
ぜひご活用ください！

サンライズミニストリー

検索



www.sunriseministry.com

YouTube

Sunrise Ministry | Youtube Channel

<https://www.youtube.com/@sunriseministry>

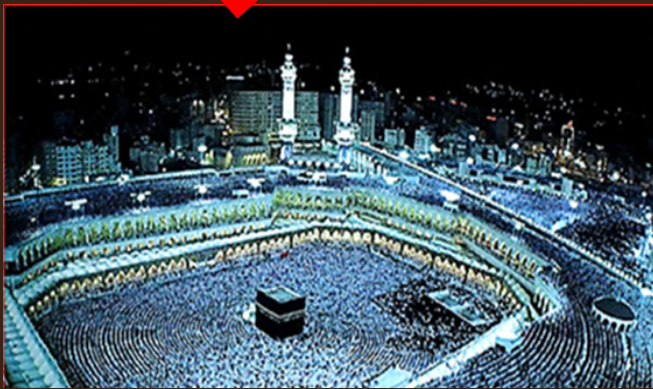


## 北の王

これから起こる  
世界大戦

ダニエル 11:40 ~ 45 の研究

金城重博



## 南の王

60 万人も収容できるカーバ神殿



## 東と北からの知らせ

## 序論：

イエスは世の終わりに起こる兆しの一つとして戦争について言われた：

「また、戦争と戦争のうわさを聞くであろう。注意していなさい、あわててはいけない。それは起らねばならないが、まだ終りではない」マタイ 24:4。

20 世紀には、第一次、第二次世界大戦で多くの命が失われ、血が流された。21 世紀にはどんな世界規模の戦争が待ち受けているのだろうか。その他に、ベトナム戦争、絶えざる中東戦争、湾岸戦争、イラク戦争、シリア戦争 ... そして 2022 年 2 月 24 日から始まったロシアーウクライナの戦争、2023 年 10 月 7 日にハマス・イスラエル戦争。エスカレートしていく戦争は今後どうなるのか？

現代の恐るべき兵器—大量破壊兵器—核兵器、生物兵器、化学兵器、原爆の 100 ~ 1000 倍の威力を

持つ水爆、弾道ミサイル（爆発物を遠距離に飛ばすもの）、を使用したらどうなるかは明々白々である。

Y A H O O !  
JAPAN2023 - 10  
- 29 日に次のような記事があった：



「第 3 次世界大戦のリスクが急速に高まっている」イーロン・マスク氏が“X”で警告 アクセス数 2 千万回超

イスラエル軍のガザへの地上侵攻を前に、テスラ・モーターズ CEO で、ビリオネアのイーロン・マスク氏が、10 月 23 日（米国時間）、起業家デイビッド・サックス氏主催の「イスラエル・ハマス紛争は





どこに向かっているのか？第3次世界大戦に繋がる可能性があるのか？というテーマのディスカッションに参加し、イスラエル・ハマス紛争とウクライナ戦争は、第3次世界大戦に発展する可能性を高めていると警告した。ちなみに、このディスカッションを聞くことができるポッドキャストの投稿には2,000万回超のアクセスが来て、ディスカッションは110万回超リスニングされている。

「最も重要なのは、第3次世界大戦を避けることだ。なぜなら、私たちは第3次世界大戦から立ち直ることができない可能性があるからだ。そして今、第3次世界大戦のリスクが急速に高まっていると思う。地域紛争は急速に世界規模の紛争になる」。

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/c159eeeb49293d326da830f8914157ac32867811>

第一次世界大戦がやっと終わってもう戦争は止めようと言って国際連盟を設立したのもつかの間、第

二次世界大戦が起こった。その後1945年10月24日に国際連合 (UN)を正式に設立した。が、どうだろう？第三次世界大戦の危機が危ぶまれる時代に我々は生きている。それを回避するため、人間はあらゆる努力をしている。

## 聖書の預言によると、これからあと二つの世界的「大戦」が起こることになっている。

それは、ダニエル 11:40～45 に書いてある。

- ① 一つはキリスト教的に十字軍とイスラム的にジハード (聖戦)。そして「新世界秩序＝統一政府」が構築される。
- ② もう一つは、ハルマゲドンの戦い、悪の勢力と神の民との戦い。 どうしてわかるか？ 確実な聖書の預言から見よう：

その後、「人手によらずして」永遠の神の国が実現する！

## ダニエル 11：40 節～ 12 章の背景

ダニエルの4つの預言がある。2章、7章、8章、そして11～12章

### 1. ダニエル 2 章の預言は世界帝国の興亡の歴史の基礎 概要

- ・ダニエル 2 章：バビロン→ペルシャ→ギリシャ→ローマ→分裂した世界→滅亡→永遠の神の国
- ・ダニエル 7 章：バビロン→ペルシャ→ギリシャ→ローマ→ローマ法王教→滅亡→永遠の神の国
- ・ダニエル 8 章：                   ペルシャ→ギリシャ→ローマ→ローマ法王教→滅亡→永遠の神の国
- ・ダニエル 11 章：               ペルシャ→ギリシャ→ローマ→ローマ法王教→滅亡→永遠の神の国

異教ローマは亡んだが、キリスト教化したローマが世界支配を試みるが亡びる事になる。この四つの預言は、反復&平行&拡張&詳細に説明されて行く。人間による世界支配はついには成し遂げられない。どんなに人知を尽くしても成り立たない。神の国は「2:45 一つの石が人手によらず」して成し遂げられることになっている。(8:25)

## ダニエル 11、12 章の預言は第 4 番目の預言：

2章、7書、8章、11章の22、23節までは、わが教会はかなり知っている。しかし、4番目の後半は難解だとされていたが、近年この個所の解釈に挑戦している人々がいる。

# ダニエル 11:40 ~ 45 の研究に熱中している 人々

なので、聖書の最も難解と言われているダニエル 11:40 ~ 45 節の預言にあえて挑戦したいと思う。

セブンスデー・アドベンチストは預言の民と言われている。うれしいことは、この難解と言われている個所にいろんな学者や信徒の預言研究者が時々集まって意見交換をしている教会がある。ミシガンのベーリング・スプリングにあるヴィレッジ教会である。キリストの柔和を持って賛成、反対の解釈を出し合っで一致を目指している。

Dr ConradiVine は、ヴィレッジチャーチの牧師でもあり、今アドベンチスの中に、「北の

1

2

3

4

5

ダニエル書の4つの預言			
2章	7章	8章	11,12章
 パビロン B.C605 503 メドペルシャ B.C539 331 ギリシャ B.C331 168 ローマ B.C168 A.D476 分裂したヨーロッパの国々 ローマ法王権 -A.D1798			
		雄羊	
		雄山羊	
		4つの角から小さな角	
	調査審判	1 8 4 4 年 終わりの時 キリストと聖徒に与えられる	終わりの時 北の王の世界支配 ミカエル/神の民との対決 神の民の救出
	キリストの永遠の王国	執行審判	神の永遠の王国



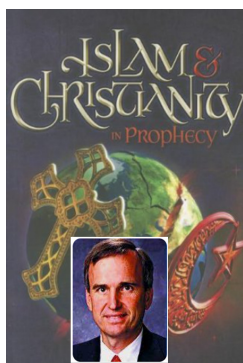
コンラード・ヴァイン

王」と「南の王」の説にどんな意見があるかをまとめた表を作成した。Dr Roy E. Gane は、ヘブライ語聖書・古代近東言語



ロイ・ゲイン

学教授、Tim Rosenburg 牧師は、この研究に20年以上も没頭してきた牧師である。40節からの「終わりの時」とは何か、「南の王」と「北の王」とは何を意味するか、40節~45節の短い6節にぎっしり詰まっていることは、これからの預言だとする人が増えてきている。従来の過去適用から近未来に起こることだとしているのである。



終わりの時に「北の王」=ローマ法王教の世界支配のことはだ

いたい一致しているようだが、「北の王」に戦いを挑んでくる「南の王」とは、無神論権力なのか、それともイスラム教なのかまだ意見の一致がみられない。

預言研究者である医師の Dr Franklin Fowler の研究も非常に面白い。彼は「終末時代の世界支配を狙う二大勢力」という本を出している。私にとって、Tim Rosenburg 牧師 と、Dr Franklin Fowler と David Lackey の「Revelation of Jesus」、Robert Brinsmead の研究もよかった。Dr Robert Wood 医師の研究も私のダニエル・黙示録研究を見直す研究に非常に役立った。彼の「ダニエルとヨハネの黙示録を探る - ヨハネの黙示録における反復 - 繰り返し解釈の問題 (recaptulation)」は、従来の黙示録の解釈に細かくメスを入れておかしい、見直さなければならないという研究に私は大いに鼓舞された。

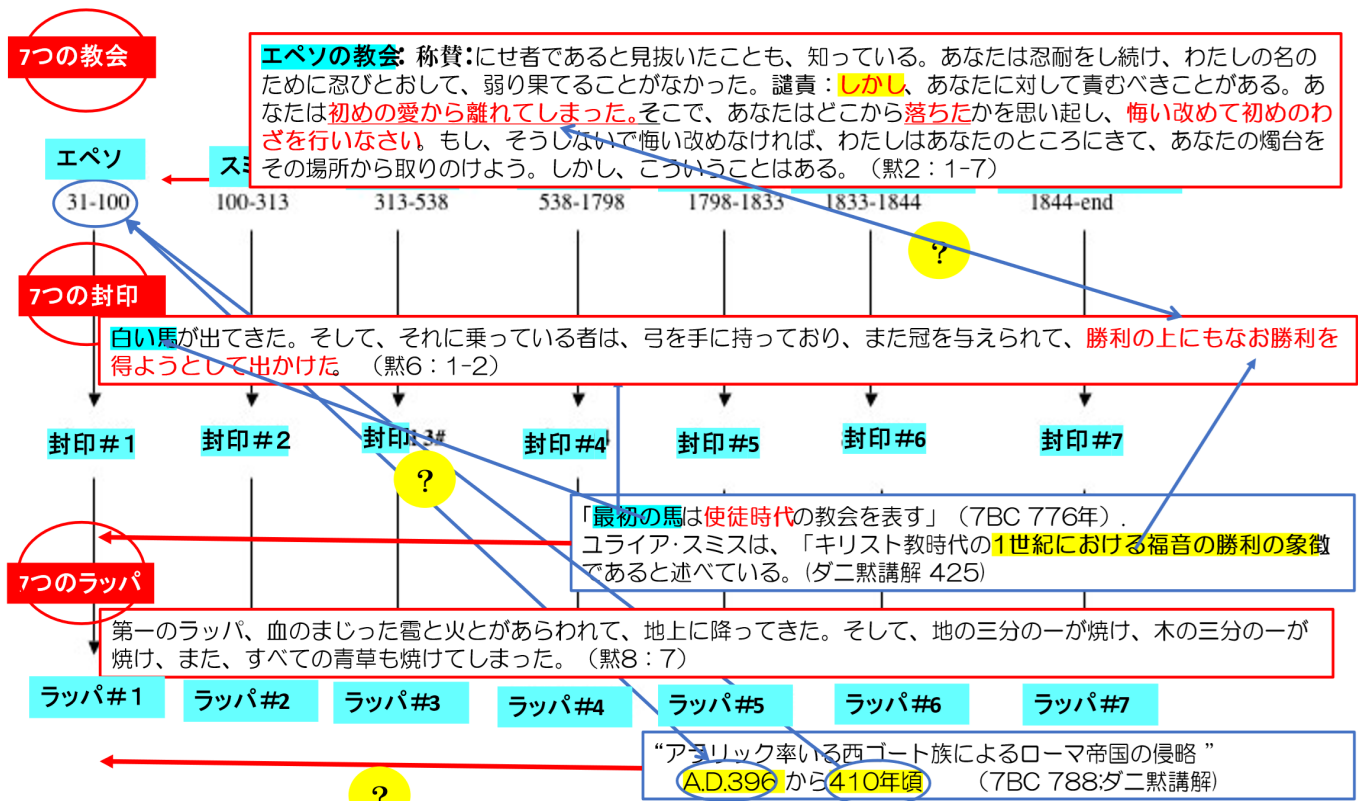


フランクリン・ファウラー

ダニエル 11:40 ~ 45 の研究から話がそれてしまったが、言わんとするところは、我々は過去の学



ちなみに、黙示録の7つの教会、7つの封印、7つのラッパの従来の解釈を分析した Dr Robert Wood 医師の解剖の一例だけ挙げておく。よくぞ細かく調べたものだと感心した。



※黙 6：9-11 ホワイト「ここにヨハネは現実ではなく、未来の時の期間を示された。(2OMR197,198)1898年。

びを見直すべきところがあるということである。真理は漸進的である。

あるが、どれが正しい解釈なのか時間がかかる。



「真理には、どの時代でも新しい発展があった。つまり、時代ごとに、その人々のための特別の神からの使命があった。古い真理はみな重要である。新しい真理は古い真理から切り離されたものでなく、古いものの解明である。古い真理を理解して始めて、新しい真理を悟ることができる。..... 真理を新たに解き明かすことによって、輝く光が古いものをいっそう輝かしくする。新しい光を拒んでなおざりにする人は、実は、古いものを持っていない。それは、彼にとって、生きた力を失ったむなしい形式と化してしまうのである」。実物教訓 105-106

「私たちは多くの事を学び (learn)、またさらに多くの事を学びなおさなければ (unlearn 捨て去る) なりません。自分の抱いている考えを決して変える必要はないと思い、その意見を変えない人々は、失望するでしょう。自分自身の考えに固執し、決してそれから離れないならば、キリストの祈られた一致に至ることはできません」。1 セレクテッド 35、RH、1867、10-8

これらの預言研究者から私は多く学ばされた。勿論、まだこれらの研究者が完全に一致していないところが

「天使は『自己を否定しなさい。あなたがたは早く進まなければならない』と言った。ある者は真理に接し、一步一步進んでいき、進む度に次に進む力が与えられた。しかし、今や、時はほとんど過ぎ去り、これまで数年かかって学んだことは、数か月で学ばなければならない。また、彼らは前に学んだ多くのことを捨て去り、多くのことを学ばなければならない。 布告が出される時に獣とその像の刻印を受けたくない者は、否、われわれは獣の制度を尊重しないと明言する決心を、今、しなければならぬ」。初代文集 144

## では、我々も挑戦しようではないか。

ダニエル書の四番目の預言の導入篇が 10 章である。その大テーマ、焦点は何か？

「末の日に、あなたの民に臨まんとする事を、あなたに悟らせるためにきたのです。この幻は、なおきたるべき日にかかわるものです」ダニ 10:14。

国々の争い、特に最後の戦争ではなく、最終時代に神の民はどうなるかということである！これを忘れてはならない！

この個所の理解を難解にしているのは「彼」は誰を指しているのかということがはっきりしていない。しかし、文脈を見、そして歴史に照らしてみると理解できる。11 章の初めから見ると分かってくる。

11 章の 1 節から注解することは後にして、今回は、いきなり 11:40 から見てみよう。

預言者 E.G. ホワイトはダニエル 11 章の預言研究の重要性について次のように言っている：

「世界は戦争の精神でわき立っている。ダニエル 11 章の預言は、ほとんど完全な成就をみている。まもなく、この預言に告げられている苦難の光景が起こるであろう。この預言の成就した多くの歴史は、また繰り返されるであろう。30 節にある勢力が述べられている。『彼は脅かされて帰り、聖なる契約に対して憤り、事を行うでしょう。彼は帰って行って、聖なる契約を捨てる者を顧み用いるでしょう。』[31-36 を引用]。これらの言葉に引用されている似たような光景が起こるであろう。サタンは神を恐れない者たちの心を支配しようと急いでいる証拠を見ている。すべてのものは、この書の預言を読み、理解しようではないか。なぜなら我々はまさにダニエル 12：1-4 に語られている時に入ろうとしているからである。」13MR394 (1909 年)

では、もう一度 40 節からまず聖句を見てみよう：「彼」は「北の王」か「南の王」かを分かりやすくするために括弧を挿入した。

**12 章は別に取り扱うことにして 11:40 ~ 45 まで学んでみよう。ダニエル 11:40 ~ 45 まず聖句を読んでみよう：**

「11:40 終りの時になって、南の王は彼(北の王)と戦います。北の王は、戦車と騎兵と、多くの船をもって、つむじ風のように彼(南の王)を攻め、国々にはいつていつて、みなぎりあふれ、通り過ぎるでしょう。11:41 彼(北の王)はまた美しい国にはいます。また彼(北の王)によって、多くの者が滅ぼされます。しかし、エドム、モアブ、アンモンびとらのうちのおもな者は、彼(北の王)の手から救われましょう。11:42 彼(北の王)は国々にその手を伸ばし、エジプトの地も免れません。11:43 彼(北の王)は金銀の財宝と、エジプトのすべての宝物を支配し、リビヤびと、エチオピヤびとは、彼(北の王)のあとに従います。11:44 しかし東と北からの知らせが彼(北の王)を驚かし、彼(北の王)は多くの人を滅ぼし絶やそうと、大いなる怒りをもって出て行きます。11:45 彼(北の王)は海と美しい聖山との間に、天幕の宮殿を設けるでしょう。しかし、彼(北の王)はついにその終りにいたり、彼(北の王)を助ける者はないでしょう」。

このたった 6 節の聖句は大きく展開、拡大して今後の最終時代の戦いに光を投げかけている。

次のことを調べていきたい：

1. 終わりの時。
2. 「南の王」が「北の王」に挑戦する。
3. 「北の王」が世界制覇していく。
4. それは「つむじ風のような」速さで。
5. 「美しい地」に入ってくる。
6. 「北の王」に服さない者たちがいる。逃れる者たち。
7. 「北の王」に立ち向かう新たな勢力が出陣する
8. 「北の王」は驚いて、怒って「東と北からの知らせ」を持つ者たちに最後の戦いを挑む。
9. 「北の王」は負けてしまう。

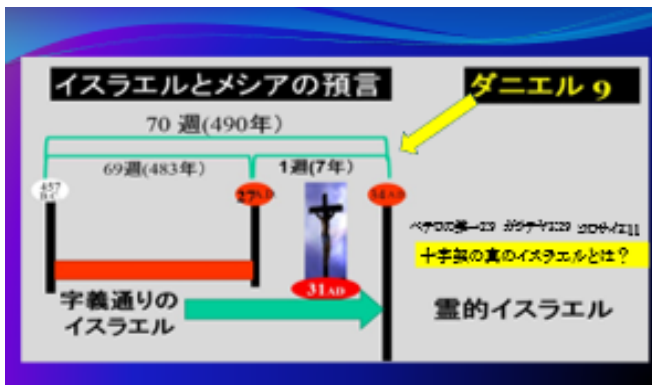
これだけは、11:40 ~ 45 節まではっきりしている。

これからの解釈は、まだはっきりしないところがあるので、独断的にならないようにしたい。

旧約聖書のパレスチナ用語が用いられているが、十字架以降は字義通りではなく霊的に解釈されなければならない。



# 1. 終わりの時とは？



11:40 「終りの時」になって、南の王は彼(北の王)と戦います」

「終わりの時」についていくつかの考え方があ

- 1260年の預言が1798年で終わった時からとする人。
- 1844年からとする人。
- これから近未来のこととする人。

私は、近未来のことと

なぜか。

- ① 「終わりの時」という言葉はダニエル 8:17 「憤りの終わりの時」 8:19 「定められた終わりの時」 11:35 「終わりはなお定まった時」 11: 40 「終わりの時」 12:4 「終わりの時」と 9 「終わりの時」。ヘブル語でエス・ケッツ (H7093 と H 6256)、すなわち、「終わりの時の終わりー末端」は、聖書にここ以外使われていない。

ハバクク 2: 2-3 「主はわたしに答えて言われた、この幻を書き、これを板の上に明らかにし、走りながらも、これを読みうるようにせよ。この幻はなお定められた時を待ち、終りをさして急いでいる。それは偽りではない。もしおそれば待つておれ。それは必ず臨む。滞りはしない」

再臨直前の「定められた終わりの時」短期間のことで、180年前のことではない。

- ② 「北の王は、戦車と騎兵と、多くの船をもって、つむじ風のように彼(南の王)を攻め、国々にはいつていつて、みなぎりあふれ、通り過ぎるでしょう。「南の王 = エジプト = 無神論権力 = 共産主義」とする場合、1798年からつむ

じ風のように世界を「北の王」は制覇しているだろうか。もう 1844 年から 180 年も経過している。

- ③ 確かに、「南の王」を無神論権力 = 共産主義とした場合、世界の半分も共産主義が制覇している時代があった。ニューヨーク・ポスト誌に次のような記事があった：

「1962 年 8 月 22 日付の『ニューヨーク・ポスト』誌は、アメリカ経営者協会会長のジャクソン・マーティンデルの言葉を引用している：共産主義 (Communism) が世界を支配するか、カトリック (Catholics) がそれを阻止するかのだ」。



あの時代は、確かにそのような様相であった。1991 年に共産主義の国ソ連は崩壊した。あの時、有名な米国のライフ誌と文芸春秋にヨハネ・パウロの 2 世の勝利という記事が載ったことがあった。2014 年には、フランシスコ教皇がキューバとの国交を成し遂げた。中国はまだ共産主義の大国である。

しかし、今日ヨハネ・パウロ 2 世から嵐は特に強くなってきたのは確かである。フランシスコ教皇になって宗教 (エキュメニカル)、政治、経済の戦略は世界統一へと「つむじ風のように」その強度を増している (「つむじ風」とは、強い台風、旋風、ハリケーン、サイクロン、竜巻の意)。これから近未来に「つむじ風」のようにフランシスコ教皇と米国による新世界秩序構築へと向かうであろう。

- ④ 次の「南の王」は誰かという理解によっても、「終わりの時」の解釈も変わって来るだろう。私は、従来の無神論権力 = 共産主義でなく、イスラム勢力であると思っている (※イスラムも無神論権力という人もいる。なぜなら、創造者、イエス・キリストを認めないのだから)。

アンカー誌 46 号に異なった意見があるので、各自、祈りのうちに確信を得るまで研究してほしい (アンカー 58 号でもニュースウォッチで触れた)。イスラムとカトリックのつながりについては、アンカー 55 号を参照 (Dr Walter Veith の記事)。

## 2. 「北の王」とは誰か？

- ① 「北の王」は誰かということは、わが教会ではだいたい一致してローマ法王教であるとしている。

ダニエル書の四つの預言の図を見ると、ローマ→「小さい角」ローマ法王教であることは一貫している。ダニエル 11:40～の「北の王」は世界支配をする権力だから、小さい角 (7章、8章)と「北の王」は同じであることは分かる。

- ② 黙示録 13章の「海獣」の預言でも、17章の預言で「赤い獣に乗っている大淫婦=バビロン」もローマ法王教であることが分かっている。
- ③ 世界支配をなしとげる「海獣」について「全地の人々は驚きおそれて、その獣に従い、また、龍がその権威を獣に与えたので、人々は龍を拝み、さらに、その獣を拝んで言った、「だれが、この獣に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うことができようか」13:5。



ローマ法王教

アメリカ

17章を見ると、大いなるバビロンと全世界の指導者が神の民に戦いを挑んでくることが書かれている：

また、「彼らは小羊に戦いをいどんでくるが、小羊は、主の主、王の王であるから、彼らにうち勝つ。また、小羊と共にいる召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝利を得る」17:14。17章の赤い獣に乗っている大淫婦は、バチカンであり、政治権力と宗教



権力を結合したものであることを描写している。

問題は、ダニエル 11:40の「南の王」は誰かという

ことである。

## 3. 「南の王」とは誰か？

今日、二大勢力が世界支配を狙っていることはアンカー 46号にも書いた。それは、「北の王=ローマ法王教」と「南の王=イスラム勢力」であることを書いた。「南の王」はイスラム勢力と解釈する人がだんだん増えてきている。私もその考えである。

- ① 11:40の「南の王」はヘブル語で南=ネゲブである。「乾燥しきった」の意。エジプトではない。エジプトは11:43にちゃんとエジプトと書いてある。それは、ヘブル語で「ミツライム」である。この二つは使い分けなければならない。エジプトも含む荒野地域である。

くわしくは、アンカー 46号を参照。

ネゲブ・パランの荒野に住むようになったイシマエルの子孫を統一してイスラム教が拡大していく。イシマエルの子孫をも大いなる国民とすると神は約束されたように(創世記 21:17,18)、イスラム教が全世界に拡大しているのを見ると、驚くべき預言の成就と言えらるだろう。



### マホメッド・アブドゥラー

(570-632 A.D) は、アラビアのメッカで生まれた。イスラム教の創始者で、神からの啓示を受けて、コーランを書いたという。メッカの人々は、彼のメッセージ、神の預言者という彼の主張を拒んだので、メディナというところに移り、メディナの人々は彼の教えを受け入れ



メッカに行って力づくで布教した。メッカもイスラムの聖地となる。イスラムの人口増加は実に驚くべきものである。そして、今や世界で4人に一人というほどに広まっている一大宗教である。



従って、中東だけに目をとめてはならない。

『ネゲブ』とは、およそ 4800 平方マイルの（面積を持つ）地域で、パレスチナの南端からシナイ半島へ、南東からアラビアへと続く、何マイルも続く不毛の土地を含みます。それは（まさに）「荒涼とした」地域でした（エレミヤ 13:19、エゼキエル 20：46-47）。アブラハムの時代には肥沃だった可能性がある。『荒廃（荒らす）』は、聖書の中で重要な象徴的な用語になった」 Dr Franklin Fowler。



② 世界支配を狙っている勢力は二つある。

ダニエル 11:40 ~ 45 によると「北の王=ローマ法王教」と「南の王=イスラム」。それは世界大戦となるであろう。

### 1. ローマ法王教 = バチカン

「ローマ教会の計画や運営方式には遠大なものがある。この教会は、再び世界を支配するために、また迫害を復活させるために、またプロテスタントが行なったすべてのことを無効にするために、激しい決定的な戦いの準備として、その感化力を広げ、その勢力を強めようと、あらゆる手段を用いている。カトリック教は至るところに地歩を占めつつある」大争闘下 321-322。

イエズス会は、ローマの精鋭隊である。

「その（イエズス会）目的とするところは、富と権力の獲得であり、プロテスタント主義をくつがえし、法王至上権を復興することであった」大争闘上 294。

イエズス会フランシスコ教皇は、それを成し遂げるであろう。

### 2. 世界支配をすると豪語しているイスラム!



預言によると「南の王」は敗北する。

「北の王=ローマ法王教」は、軍隊がないのにどのように戦い、勝利するのであるのか？ バチカンの同盟諸国米国主導 (NATO) の力で勝つのである。

まとめると：

「終わりの時」のプレイヤー（役者）は二つ。

北—背教キリスト教—ローマ法王教



南—イスラムである。

サタンは、中東における戦いだとして人々の目をそらしている。

もはや、中東の地理的な戦いではなく、全世界的なものであり、エルサレムを中心とした解釈でなく、



しかも宗教的聖戦である。

※国別に見ると、最大のイスラム国はインドネシアであり、2億人のイスラム人口を抱えている。

## ダニエル 11:40～45の解釈において、覚えておくべきポイント：

1. 「歴史は繰り返す」。
2. 十字架以降、真のイスラエルは、世界的 - 霊的 神の民を指す。
3. 終わりの時の「北の王」はバチカンとその同盟諸国、「南の王」は、イスラムとその同盟諸国。
4. ダニエル7章、8章の恐ろしい「小さい角」、11章の「北の王」は、ローマ法王教である！

(一般的な注解として受け入れられている「アンティオカス・エピファネス」は間違い！)

5. 中東のエルサレムを中心としてハルマゲドンの戦いの第三次世界大戦が展開されるということではない。

ダニエル 11:25～は、ローマ法王教の十字軍とイスラムとの聖戦であった。聖地エルサレムをめぐるの実に残酷な血なまぐさい戦いが8回展開された。9回という人もいる。

元東京都知事、作家の故石原慎太郎氏の言葉：2015.1.23 05:02



「ナイジェリアで多数の女子を誘拐し、奴隷化するなどと宣言したテロ団の指導者がカメラに向かってわめいていた『われわれはキリスト文明の全てを破壊するのだ』という宣言には、実はきわめて重い歴史的な意味合いが在る。…2世紀(12世紀?)におけるサラセン帝国とキリスト教圏との衝突に始まり、中世の十字軍騒動以来、実は今日まで続いている。…

### 《新しい宗教戦争の到来》

視点を現実を起こっているイスラム系のテロに向け直せば、中世以後のアラブやアフリカが強いら

れた歴史を見直せば、彼らが今改めて、西欧の神を殺すと宣言してはばからぬ所以の歴史的な蓋然性に気付くべきにちがいない(蓋然性とはその事が起こり得る‘見込み’のこと)。…要約すれば、数世紀続いてきた白人の世界支配がようやく終わろうとしている今、新しい宗教戦争が始まろうとしているのだ。

「文明の衝突と世界秩序の再構築」サミュエル・フィリップス・ハンティントンは1990年に言った：(サミュエル・P・ハンティントン Samuel Phillips Huntington は、ニューヨーク生まれの国際経済学者)

「キリスト教は主として改宗によって信者を増やしているのに対し、イスラム教は改宗と人口増加によって信者を増やしている。…2025年には世界人口の約30%に達するだろう。…「イデオロギーの対立は終わったが、人類の対立、紛争が終わったわけではない…世界にいくつか存在する文明、多くの領域が絡み合った<文明>というものが正面に出てきて、これからは地球上文明間で紛争が起こる」。20世紀哲学、思想史 - 20世紀の思想家は何を考えていたのか? -



## ハルマゲドンの戦い

しかし、「終わりの時」の戦いは、字義通りのエルサレムを中心としてなされるのではない。

この最後の戦いは、準決勝戦で、ローマ法王教が勝利する。

ローマ法王教に大軍を率いて挑戦するイスラム勢力は惨敗する。

「北の王は、戦車と騎兵と、多くの船(大船団)をもって、つむじ風(大嵐)のように彼(南の王)を攻め、国々にはいつていつて、みなぎりあふれ、通り過ぎるでしょう」。

法王教=バチカンは、軍隊を持っていないので、その同盟国、アメリカヨーロッパ諸国の軍隊を使う。

すでにイスラム過激派は欧米諸国ばかりでなく、アジアにも広がっていて世界をおびえさせている。





日本はこの戦いに、第一次世界大戦のように参加するだろうか？



モーリー・ロバートソン氏は日本も他人事じゃないと言っている。

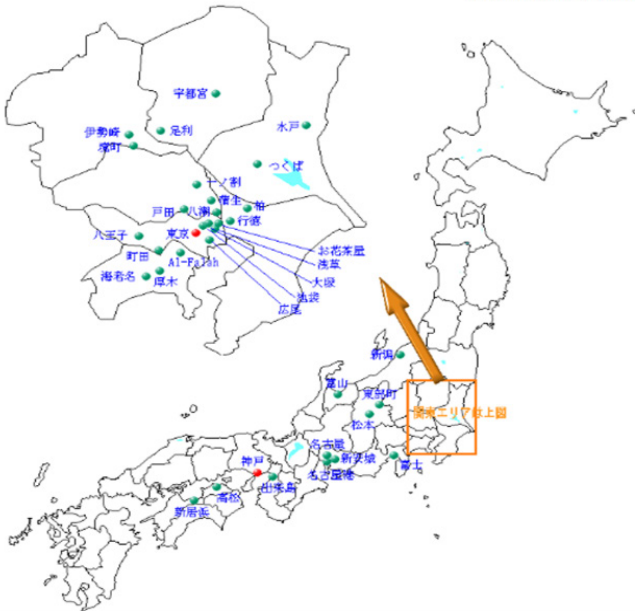
ピュー・リサーチ・センターの調査では、2010年の滞日ムスリム人口は、約18万5千としている。(ウイキペディア) 国内に開設されたイスラーム礼拝所(モスク)は、戦前には3箇所、戦後の1980年代はじめに至るも4箇所に過ぎなかったが、2021年9月現在、モスクの数は110を越えている。

<https://www.imemgs.com/muslim-population-estimation/510/>

★イスラムのホームページ Islamic website in Japan

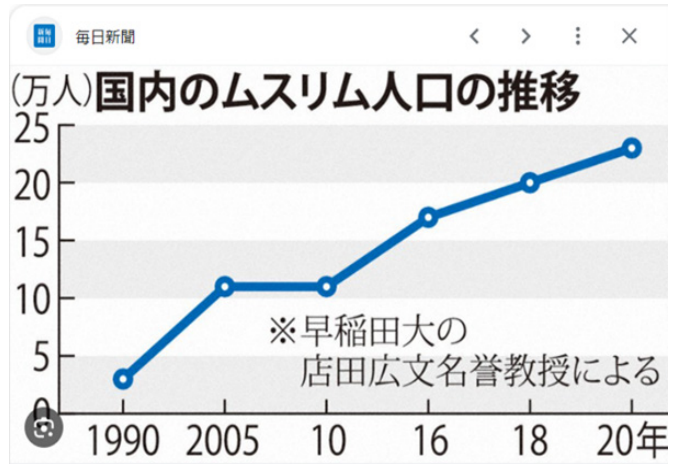
日本の主なモスク分布

2004年6月29日現在



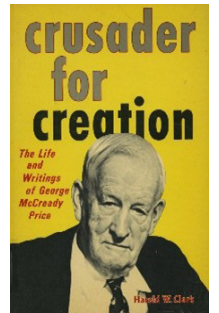
準決勝戦！

- ・第一戦は、「南の王=イスラム」が仕掛けてくる。
- ・「北の王=ローマ法王教」が勝利する。



11:41 **彼(北の王)はまた美しい国にはいます。また彼(北の王)によって、多くのものが滅ぼされます。**

「美しい地 - 欽定訳」は、昔は、中東であったが、十字架以降は、霊的に解釈する。どういう意味だろうか。SDAの著名なPrice, George McCready 博士は(1870?1963)は、「プロテスタント諸教会」と解した。ヨーロッパから新大陸アメリカに逃れてきたプロテスタントアメリカと解釈する人もいる。しかし、プロテスタント諸教会は、第一天使を拒否して背教し、バビロンとなった。



では、現代の「美しい地」は何を意味するのだろうか。言うまでもなく、黙示録 12:17にある、セブンスデー・アドベンチストを指している。「北の王」、ローマ法王教はSDA教会に入って、多くの者が滅ぼされるとはどういうことか？ E.G. ホワイトの言葉は厳粛である：

「あらしが迫って来る時、第三天使の使命を信じてと公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰(position- 立場)を棄てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっている。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般向けのする側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。安息日遵守者が法廷

に呼び出されて、信仰について答える時に、これらの背教者たちは、サタンの最も強力な手先となって、彼らの中傷し非難する。そして、偽りの報告やあてこすりによって、彼らに対する権力者たちの怒りをかき立てる」 各時代の斗争圖下 378。

教会の歴史を見ると、まだ、「つむじ風」は吹いていないが、すでにセブンスデー・アドベンチストが信仰を捨てて日曜教会に移っている信者は少なくはない。日曜遵守令の強要の迫害の嵐が来たときには、「多くの者」が反対の側に加わる。一例だけ挙げてみる。



「John Ankerburg Show」という有名なショーに招かれた、「ホワイトの嘘つき」の著者、ウォルター・レー牧師とPUCの神学部長であったデスモンド・フォードは、1844年の再臨信仰の土台はでっち上げ、エレン・ホワイトを預言者とするのは、非聖書的であるとたくさんのクリスチアンの集会で供述している。アンカバーク博士の後ろにいるのはSDAの多くの牧師たち。ビデオを見たい方：YouTube でご覧ください。

Exposing the seventh day Adventist SDA, John ankerberg show ; The John Ankerberg Show with Walter Martin And William Johnson - Are 7th Day Adventists in a Cult? その他…強烈な神学的なパンチを食らう。

我々も再臨信仰を自分で弁明しなければならない嵐が迫っている。

「**大多数**が我々を見捨てる時に、真理と正義を擁護して立つこと、また戦士がほんのわずかしかない時に、主のいくさを戦うこと…これが我々のテストとなるであろう。この時に我々は人々の冷淡さから熱心さを、彼らの臆病から勇気を、そして彼らの背信から忠誠を奮い立たせなければならない」。—5T 136 (1882年)

「われわれが輝かしさを賛美した**多くの星**が、その時暗黒の中に消えていく」。—国上 156(1914年編集)

「**多くの者**は、キリストと共に生きようと望みながら、彼と一つとなっていないこと、そして世に対して死んでいないことを示すであろう。しばしば、責任ある地位にある者たちの背教があるであろう」。—RH 1888年9月11日 最終104。

「すべての人にテストがやって来る時は、あまり遠くはない。獣の刻印が我々に押し迫ってくる。一步一步世俗の要求に屈服して、世俗の風習に従ってきた人々は、嘲笑や侮辱、投獄されるとの脅迫や死に身をゆだねるよりはむしろ、時の権力に屈服する方が困難ではないと感ずるのである。それは、**神の戒めと人間の戒めとの間の争い**である。この時に、教会において、金が不純物から分離されるであろう。—5T 81 (1882年) 最終時代の諸事件 102

「迫害がないときに、何となく我々の隊列に加わっている者がある。彼らは健全で疑う余地のないクリスチャン精神を持っているように見えるが、迫害が起ると、我々の内から出て行くのである。—Ev 360 (1890年) 最終時代の諸事件 102

「**神の律法が無効にされる時**、教会は火のような試練によってふるわれるであろう。そして、今我々が予期するよりももっと**大勢の人々**が、惑わす霊と悪霊の教えとに気をとられるのである。—2SM 368 (1891年) 最終時代の諸事件 102

近い将来、日曜遵守令が強要される時、「多くの者が信仰-立場(position)を捨てて反対側に加わる」。何と厳粛なことであろう。

「**教会は今にも倒れそうに見えるかもしれないが、倒れることはない**。シオンの罪人がふるい落とされ、尊い麦からもみながら分けられるが、教会は存続する。これは恐ろしい試練であるが、それでも、それは起こらねばならないのである」。—2SM 380(1886年) 最終時代の諸事件 102

最後まで存続する教会は組織であろうか？

「**神は教会を持っておられる**。それは大きい大聖堂でもなければ、また、国の施設でもない。また、それはさまざまな宗派でもない。それは神を愛しその戒めを守る人々である。『2人あるいは3人がわたしの名によって集っている所にはわたしもその中にいる』(マタイ 18:20) どんなにわずかな者たちであっても、キリストがおられるところは、それがキリストの教会である。永遠にいましたもういと高き聖なるお方のご臨在だけが教会を構成することができるのである」。UL 315

「**神を愛し神の戒めに従う者たちが2人、あるいは**



は3人出席しているところには、そこが地球の荒れ果てた場所であろうと、荒野であろうと、都市の刑務所の壁で囲われた中であろうと、イエスがそこを支配なさる。神の栄光は刑務所の壁を貫き、最も暗い地下牢を輝かしい素晴らしい光で溢れさせてきた。聖徒たちは苦しむかもしれない。しかし彼らの苦しみは、昔の使徒のように、信仰を広め、そしてキリストに魂を勝ち取って、神の聖なるみ名を崇めるであろう。神の義の偉大な道徳的基準を憎む人たちによって表された最も苦しい反対は、完全に神を信頼する断固とした人々を揺さぶるべきではないし、また揺さ振らないであろう」。UL 315

「世のはじめから忠実な人々がこの地上に教会を構成してきた」。患難上3

「神はご自分が、支配権を握っておられることを明らかに示す手段、方法をお用いになる」時が来るであろう (EV118)。教会は震われた後「頭から足まで、武具をまとっていた。彼らは、兵卒の隊のように、規律正しく動いた」(初代文集 139)。教会は現代の真理によって完全に一致して出陣するであろう (初代文集 135)。教会はキリストの義の武具をまとめて、最後の争闘を始めなければならない。『月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のよう』に、教会は全世界に出て行って、勝利に勝利を収めなければならない(雅歌 6:10)。教会と悪の勢力との闘いの最も暗黒な時は、教会が最後に救出される日の直前である」。国指導下 326

**11:41 「しかし、エドム、モアブ、アンモンびとらのうちのおもな者は、彼の手から救われましょう。**

これらの民族は今はいない。十字架以降は字義通りでなく、霊的に解釈すると、どういう意味だろうか？エドムはヤコブの兄弟、イサクの子であり、エサウの子孫であった。モアブ、アンモンは、アブラハムの甥、ロトの子孫であった。神の民の血統であったが背教した。現代的には、かつてカトリックに抗議した宗教改革派のプロテスタントであろう。背教プロテスタントの中に多く神の民がいると E.G. ホワイトは言っている。

ローマ法王教が世界支配してそのドグマ(教義)を全世界に強要する時、彼らはその支配から逃れて救われるであろう。

イスラム教から救われる人々、背教プロテスタン

トから救われる人々から多くの者が真理の側に立つであろう。

「けれども、今、光は至るところにゆきわたり、真理は明らかにされ、神の忠実な子供たちは、彼らを束縛していたかせを絶ち切るのである。家族関係、教会関係は、もはや彼らを止める力がない。真理は他の何物よりも尊いのである。諸勢力が力を結集して真理に反対するにもかかわらず、多くの者が主の側に立つのである」。大争闘下 383

異邦人の中にも神の子らがいる。

「さばきのときに、キリストからほめられる者たちは、神学についてはほとんど知っていなかったかも知れないが、彼らはキリストの原則を心に宿していた。天来のみたまの感化を通して、彼らはまわりの人たちの祝福になっていた。異教徒の中にさえ、親切心のある人たちがいる。いのちのみことばを聞かないうちから、彼らは宣教師たちと親しくなり、自分自身の生命の危険をおかしてまで宣教師たちに奉仕した。異教徒の中には、知らないで真の神を礼拝している人たち、すなわち人を通して光を与えられたことのない人たちがいるが、それでも彼らは滅びないのである。彼らは書かれた神の律法については無知であるが、自然を通して語りかける神のみ声を聞き、律法に要求されていることを実行した。彼らのわざは聖霊が彼らの心に触れた証拠であって、彼らは神の子らとして認められる」。3 希望 108-109

**11:42 彼は国々にその手を伸ばし、エジプトの地も免れません。**

すべての国々、無神論、世俗主義の国々が「北の王」の支配に服するであろう。日本も例外ではない。無神論、進化論、偶像王国日本も西側諸国と共に参戦すると思われる(第一次世界大戦も、第二次世界大戦もそうであったように)。

**11:43 彼(北の王)は金銀の財宝と、エジプトのすべての宝物を支配し、**

黙示録 13 章に海獣「ローマ法王教」世界経済支配戦略が書いてある。

黙示録 18 章には、どれほどの世界の富を持っているかが暴露される時が来るということが書いてある。「これほどの富が、一瞬にして無に帰してしまうとは」(18:17)。世界の指導者はその時驚かされる。



「その(イエズス会)目的とするところは、富と権力の獲得であり、プロテスタント主義をくつがえし、法王至上権を復興することであった」大争闘上 294。

イエズス会、法王教の経済戦略を暴露している本は多数ある。しかし、神の民の後の雨/大いなる叫びによって実態が暴露される時は非常に近い(大争闘下 376)。

**11:43 「リビヤびと、エチオピヤびとは、彼(北の王)のあとに従います。」**

昔、リビア、エチオピアは、エジプトと血のつながった兄弟のようであった。同盟して北-バビロンと戦ったが敗北した(エレミヤ 46: 2、9)。現代の貧困の国々も「北の王=法王教」に屈する結果になる。

**11:44 しかし東と北からの知らせが彼(北の王=ローマ法王教)を驚かし、彼(北の王)は多くの人を滅ぼし絶やそうと、大いなる怒りをもって出て行きます。」**

「この後(17章の世界支配)、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた」黙示録 18:1-8 参照。

### 東からの知らせとは？

「また、もうひとりの御使が、生ける神の印を持って、日の出る方から上って来るのを見た」(黙示録 7:2)。

「その時、見よ、イスラエルの神の栄光が、東の方から来たが、その来る響きは、大水の響きのようで、地はその栄光で輝いた」エゼキエル書 43:2。

### 144,000 の出現である！

黙 16:14-17 (18:1) の注解：出陣する神の軍

隊「我々は、第七の鉢が傾けられることについて学ぶ必要がある。悪の力は懸命なあがきをせずして、戦いを放棄することはないであろう。しかし、神はハルマゲドンの戦いで果たすべき役割を持っておられる。地が黙示録 18章の天使の栄光で明るくされるとき、善と悪との宗教的勢力は、まどろみから目覚め、生ける神の軍隊が出陣するであろう(MS175,1899年)」。703(36)頁：スタディーバイブル新 592-593

### 北からの知らせ

「北の王=法王教」は怒って、神に戦いを挑む。これがハルマゲドンである！

全世界を支配する海獣は「誰がこれと戦うことができようか」とゴリアテのように豪語する。対決するのは 144,000!(黙示録 14章)

### これが、最終決勝戦である！

黙 17:14「彼らは小羊に戦いをいどんでくるが、小羊は、主の主、王の王であるから、彼らにうち勝つ。また、小羊と共にいる召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝利を得る」。

「また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである」(エペソ 5:27)。

「こうして、人々は西の方から主の名を恐れ、日の出る方からその栄光を恐れる。主は、せき止めた川を、そのいぶきで押し流すように、こられるからである」(イザヤ書 59:19)。

「敵が洪水のように押し寄せるときに、主の霊はそれに向かって旗を掲げられる」。欽定訳

### 11:44 「北からの知らせ」とは？

北は、神の御座のある所である「シオンの山は北の端が高く、うるわしく、全地の喜びであり、大いなる王の都である」。詩篇 48:2。サタンが望んだのは、北の果ての神のみ座であった。あなたはさきに心のうちに言った、『わたしは天にのぼり、わたしの王座を高く神の星の上におき、北の果なる集会の山に座し、雲のいただきにのぼり、いと高き者のようになろう』エゼキエル 14:13,14。

神の御座は北の方にある。エゼキエル 1章と黙示録 4章を比較



エレン・G. ホワイトの描写を見ると「北の方」に神の御座があることが分かる：

「ケバル川のほとりでエゼキエルは北のほうからやってきたらしいたつまきを見た。『わたしが見ていると、見よ、激しい風と大いなる雲が北から来て、その周囲に輝きがあり、たえず火を吹き出していた。その火の中に青銅のように輝くものがあった』とある。互いに重なり合った幾つかの輪が四つの生き物によって動かされていた。それらの上の方に高く、『サファイヤのような位の形があった。またその位の形の上に、(その王座に似たもののはるか上に - 欽定訳、新改訳) 人の姿のような形があった。』『ケルビムはその翼の下に人の手のような形のものを持っているように見えた』とある。輪は複雑な組み合わせになっていたので、一目見たときには混乱してみえたが、しかしそれらは完全な調和の中に動いていた。ケルビムの翼の下にある手によって、ささえられ導かれている天の聖者たちが、これらの輪を進めていた。これらの上の方にサファイヤの宝座があって、そこに永遠なる神がおられ、宝座のまわりを神の恵みの象徴であるにじがとりまいていた」(エゼキエル 1:34、26、10:8) 教育 210、国と指導下 143

「北の王」—ローマ法王教が神の教会に攻撃の矢をむける時、神の民は心を裂いて神の憐れみを乞う(ヨエル 2:13、17)。その時、神はみ座から後の雨を持って答える(2:23-27)。興味深いことに敵も北から来ると表現されている— 2:20、エレミヤ 1:13、15、4:6、6:1)

その時、神が介入なさる。後の雨 / 生ける神の印を持って。

「こうして、人々は西の方から主の名を恐れ、目の出る方からその栄光を恐れる。主は、せき止めた川を、そのいぶきで押し流すように、こられるからである」。イザヤ 59:19 口語訳日曜遵守令を通して神の民を迫害する時に、神が介入なさるのである。欽定訳では、「敵が洪水の如く押し寄せるとき、主の霊はそれに向かって旗をあげられる」とある。

国と指導者下 193-196 を見ると：

- ① 人間の布告が強要される
- ② 神の民は絶望するばかりに悩む、サタンは罪を告発する。
- ③ 汚れた衣が脱がされる。196
- ④ 二度と世の腐敗に汚されない。永遠に安全な

者とされる。

##### ⑤ 生ける神の印→ 144,000 の出現

雅歌 6:10 の言葉が成就する：「このしののめのように見え、月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のような者はだれか」

ある人たちが言っているように後の雨は日曜遵守令の前に降るのではなく、その後に降るのである。

彼らは、「このしののめのように見え、月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のような者はだれか」(雅歌 6:10) と言われるほど栄光の姿の教会となり、主の軍馬となり、出陣するのです。(ヨエル 2:4、ゼカリヤ 10:3)。

「そして見ていると、見よ、白い馬が出てきた。そして、それに乗っている者は、弓を手に持っており、また冠を与えられて、勝利の上にもなお勝利を得ようとして出かけた」(黙示録 6:2)。

14:1 なお、わたしが見ていると、見よ、小羊がシオンの山に立っていた。また、十四万四千の人々が小羊と共におり、その額に小羊の名とその父の名とが書かれていた。

15:2 またわたしは、火のまじったガラスの海のようなものを見た。そして、このガラスの海のそばに、獣とその像とその名の数字とにうち勝った人々が、神の立琴を手にして立っているのを見た。



新世界秩序の頭？ローマ法王教は遂にどうなるか？

**11:45 彼(北の王)は海と美しい聖山との間に、天幕の宮殿を設けるでしょう。しかし、彼(北の王)はついにその終りにいたり、彼(「北の王=法王教」)を助ける者はないでしょう。**

ローマによる世界統一政府のみじめな終わりが黙示録 17 章、18 章に描写されている。

「この世の国は、われらの主とそのキリストとの

国となった。主は世々限りなく支配なさるであろう」  
(黙示録 11:15)。



今日、ロシア・ウクライナ、ハマス・イスラエル戦争、中国、北朝鮮の問題が第三次世界大戦

の引き金になるのではと危惧し、また、多くに人々に不安と恐怖を与えている。これからどうなっていくか評論家、専門家が不確実な予想をしている時に、我々は最も確実な聖書の預言に目をとめるようにペテロは薦めている (2 ペテロ 1:19)。

**第一次世界大戦**は、1914年(大正3年)7月28日から1918年(大正7年)11月11日にかけて、連合国と中央同盟国間で戦われた世界規模の戦争である。7000万以上の軍人(うちヨーロッパ人は6000万)が動員され、世界史上最大の戦争の一つとなった。第二次産業革命による技術革新と塹壕戦による戦線の膠着で死亡率が大幅に上昇し、ジェノサイドの犠牲者を含めた戦闘員900万人以上と非戦闘員700万人以上が死亡した。史上死亡者数の最も多い戦争の一つである。(ウイキペディア)

**第二次世界大戦**における連合国・枢軸国および中立国の軍人・民間人の被害者数の総計は 5000万～8000万人とされる。

8500万人とする統計もある。当時の世界の人口の2.5%以上が被害者となった。また、これらには飢饉や病気の被害者数も含まれる。第一次世界大戦以来の世界大戦となり、人類史上最大の死傷者を生んだ。

沖縄戦の全戦没者は200,656人とされている。

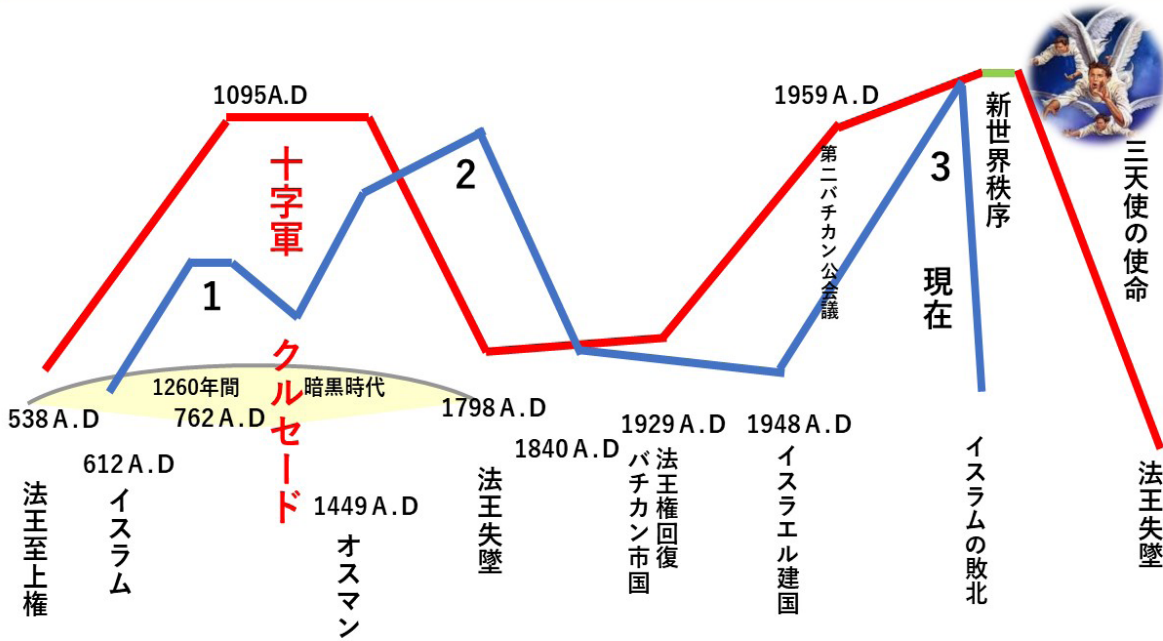
私は中学3年の時、昭和19(1944)年10月10日早朝米軍のB29の爆撃を受けた。10・10空襲と呼ばれている。私

は北部の田舎に住んでいたので何のこともなかったが、家内はいつものように学校に行こうとしたとき突然の空襲を目撃した。それを皮切りに、沖縄は激しい地上戦をともなう沖縄戦(1945年3～6月)へと突入していく。日本兵を家にあずかっていたらしいが、「日本は負けるふりをしているだけで、必ず勝つ」と言われたが、ハワイ帰りの村長は日本はあの大国アメリカに必ず負けるから、すぐ最後の疎開船に乗って本土に疎開するように」と強く訴えられたので、言うことを聞いて船に乗った。前の船が魚雷に爆破され沈んでいくのも目撃した。おばあさん、お母さんもクリスチャンであったので守られ、無事本土に着いた。今対岸の火事と思っている戦争の空模様は、突然土砂ぶりとなってやって来るか分からない。しかし、我々には神の約束がある。「たとい軍勢が陣営を張って、わたしを攻めても、わたしの心は恐れない。たといいくさが起って、わたしを攻めても、なおわたしはみずから頼むところがある。.... 27:5 それは主が悩みの日に、その仮屋のうちにわたしを潜ませ、その幕屋の奥にわたしを隠し、岩の上にわたしを高く置かれるからである。」詩篇 27:3、5。





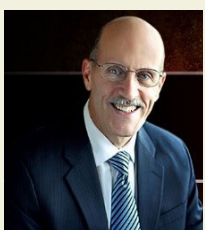
# 法王教-十字軍とイスラム勢力との聖戦ジハード



## クリスチャンは、イスラムと同じ神を礼拝しているのか

キリスト教徒とイスラム教徒は同じ神を崇拝しているのか？  
ダグ・バチェラー牧師（アメージング・ファクト、驚くべき事実）

<https://www.youtube.com/watch?v=th6xAud68QI>



### 質問と答えより：

今回は、クリスチャンはイスラム教徒と同じ神を崇拝しているのかについてお話しします。

というのも、最近ちょっとした

ニュースになっているからです。

フランシスコ法王は、イスラム教徒のキリスト教徒とユダヤ教徒は皆、共通の父を持ち、派生したものであると述べています。

そして1年以上前、ウィートン・カレッジの教授の一人が解任されたことはご存知でしょうか。

聖書やキリスト教の神はイスラム教の神と同じだと言ったからです。

では、この問題の真実は何でしょう。

キリスト教とイスラム教には歴史的に共通の歴史的背景があります。

彼らは天国か地獄かの裁きを信じています。

イスラム教徒はアダムとイブの物語を信じています。

洪水時にノアが救われたことを信じています。

アブラハムには地球を支配する偉大な先祖がいると信じています。

## イスラムの聖書と異なる教え：

それに関連して、非常に異なる信念もあります。彼らは、アブラハムがイサクではなくイシマエルを捧げたと信じているのです。

コーランの中でも、イスラム教徒は『我々の神とあなた方の神は一つであり、我々は彼に服従する』と教えられています。

イスラム教徒がユダヤ教徒と同じ神を崇拝しているとコーランが主張しているのであれば、そのことが、なぜ私たちにとって問題になるのでしょうか。

## キリスト教徒とイスラム教徒が同じ神の概念を持っているか。

まったく違うと言わざるを得ません。つまり、この2つは、まったく異なる2つの神なのです。

例えば、イスラム教はイシマエルとケトラの6人の息子を祖先とするアラブ人から生まれましたが、今日のイスラム教徒のほとんどはアラブ人ではありません。

クリスチャンは、ヤコブの子孫であるヘブル人から生まれましたが、今日のキリスト教徒のほとんどはユダヤ人ではありません。

イスラム教とキリスト教について話すとき、彼らは特定の民族から生まれたかもしれませんが、現在、世界のイスラム教徒のほとんどはインドネシアにおり、アラビアにはいません。ですから、イスラム教徒といえばアラブ人と思わないでください。

同様にキリスト教もユダヤ教から派生したものですが、現在のキリスト教徒のほとんどはユダヤ人ではなく、異邦人であり、霊的なユダヤ人なのです。

## この2つの宗教は、現在世界で最も大きな宗教ですが、大きな違いがあります。

イスラム教の信者は約17億人、キリスト教は約22億人（カトリックを含めて）。イスラム教はキリスト教よりも急速に増加し、ローマ法王フランシスコを少し心配・困惑させています。それがフランシスコ法王がイスラム教に接近している理由の1つです。

クリスチャンは、イエスが神であると信じています。しかし、コーランはイエス崇拝者を地獄に落とすほど、この教えに反対しています。

- ・コーラン 5.72によると、キリスト教徒にとってイエスは確かに神であり、イスラム教徒にとってイエスは確かに神ではありません。というように、根本的な違いがあり、それを克服するのは難しいのです。

さらに、イエスによれば、神は私たちの父であるにもかかわらず、

- ・コーランでは、アッラーが父であることを明確に否定しています。

- ・コーランは112節1節から4節までで、また、5.18で、人間は神が造られたものに過ぎないのだから、イスラム教徒に、神を愛する父と呼ぶユダヤ教徒やキリスト教徒を叱責するように言っています。

- ・コーランはイスラム教徒に対し、ユダヤ教徒やキリスト教徒が神を愛する父親と呼ぶことを禁止している。

キリスト教徒とユダヤ教徒は、神は私たちの愛する父親であると信じている思想も全く異なっており、

- ・コーランはそれを受け入れることができないと述べています。

聖書は、人は神のかたちに造られたと教えていますが、

- ・コーランは、私たちが神に似せて造られたと言うことは神を冒瀆していると言っています。



- ・もちろん三位一体の教義に関しても、イスラム教徒はこれを断固として否定しています。

神は父と子と聖霊の3人の位格によって神格が形成されているのがキリスト教の根幹です。

## 2つの宗教は根本的に相容れないものです。

- ・イスラム教によれば、キリスト教の神を崇拝することは間違っているだけでなく、あなたを地獄に送ることになるからです。ですから、同じ神であるはずがないのです。
- ・イスラム教では、神は知ることができないと言いますが、キリスト教では、キリストは私たちが神をよりよく知るために来られたと言っています。

聖書の神は、神は常に人間の歴史に深く関わっておられ、園でアダムとエバと一緒に歩いておられます。

- ・一方、コーランには、楽園はありません。キリスト教では、神はアブラハムと語られ、モーセと語られ、ヤコブと語られ、ギデオンと語られ、サムソンの両親、その他多くの歴史上の人々と語られています。
- ・コーランにおいて神は、ムハンマドを除いては、人間に直接語りかけることはありませんが、神は常に他の方法を用いて人間に伝えていきます。

しかし、聖書の神は人間の経験の中に関わっておられるのです。

聖書では、イエスは世界を救うために命を捧げた霊的指導者です。

- ・ムハンマドは精神的指導者でしたが、自分の使命を達成するために軍事的な暴力的手段を取る政治的指導者になりました。

イエスはその使命を果たすために十字架で死なれました。実際、ペテロがゲッセマネの園で剣を取り、マルカスの耳を切り落としたとき、イエスは「あなたの剣をその場所に置くように」と言われたのです。

- ・剣を取る者は皆、剣で滅びるのに、ムハンマド

は人々にイスラム教を受け入れさせるために軍事的手段を用いることを推奨しています。

イエスは決して誰かを攻撃したり攻撃されることを推奨したりせず、イエスを信じることを強要しませんでした。神を礼拝しキリストを信じることは、真心からのものでなければなりません。

政府の命令や法律によって強制されるものではありません。

ちょうど今週、私はイスラム教徒の友人と一緒に過ごしたので、今、私は愛情深く善良な人々がたくさんいると知っています。

ラマダンの始まりや終わりを祝う行事に参加しないかと誘われました。私は彼に、そんなことをするのは気が引けるかもしれないと言いました。

カレンと私は来週、イスラム教徒の多い国に行く予定です。そこには、神が救いを望んでいる愛にあふれた人々がたくさんいます。

その違いは、まさにここに 있습니다。

聖書には、神は罪人を愛しておられると書かれています。

- ・コーランには、神は罪人を憎み、神に従う者だけを愛すると書かれています。

しかし聖書は、私たちがまだ罪人であったときに、キリスト・イエスが私たちのために死なれたと教えています。

これが大きな根本的な違いなのです。

## そしてクリスチャンは、救われる方法が大きく異なります。

クリスチャンは、キリストの御業を信じる信仰によって救われると信じています。

私たちは再創造され、新しい心を受け取ります。それは信仰による救いです。

- ・イスラム教は業と行いによる救いを非常に重視しています。

最後に、ヨハネの第一の手紙 4 章 2 節と 3 節で締めくくりましょう。

「あなたがたは、こうして神の霊を知るのである。すなわち、イエス・キリストが肉体をとってこられたことを告白する霊は、すべて神から出ているものであり、イエスを告白しない霊は、すべて神から出ているものではない。これは、反キリストの霊である。あなたがたは、それが来るとかねて聞いていたが、今やすでに世にきている」(ヨハネ第一の手紙 4:2-3)。

実際、ヨハネは彼の時代にも多くの反キリストがいると言っていますし、

- ・イスラム教の教えは、イエスやキリスト教の教えとは相反するものだと思います。

### まとめると、

キリスト教徒がイスラム教徒と同じ神を崇拝していると信じている者たちは、真のキリスト教徒ではありません。

- ・イスラム教徒が信じているのは、救いの方法だけではなく、神の概念もまったく異なるからです。

イスラム教徒が信じている福音は、もし福音であったとしても全く異なるものなのです。

---

## Dr. フランクリン・ファウラー の記事より：“Endtime Issues- King of the South”

### ローマ・カトリックの権力



1870 年、イタリア政府が教皇領のすべてを没収したため、バチカンには機能不全に陥った。ローマ教会は無力となった。その後、1929 年にムッソリーニと教会の間で結ばれたラテラノ条約によって始まったカトリック教会権力の復活により、世界的に承認されたバチカン市国が誕生した。その教会国家構造が再び確立されたのである。

他国との大使の交換もすぐに行われた。

その後、第二バチカン公会議（1962-1965）によって、プロテスタントや非キリスト教世界との劇的なエキュメニカルな結びつきがもたらされた。

1978 年、教皇ヨハネ・パウロ二世が“最高位の教皇”に選出された。ヨハネ・パウロ 2 世は、カトリック教会を世界最強の“キリスト教”として最前線に引き上げた。これは別の研究テーマであるが、黙示録 17 章に記されている預言のもう一つの成就であった。彼は、淫婦が座っている獣の 6 番目の頭、すなわち“ある者”となる。彼は歴史上のどの人物よりも多くの人々に見られた。彼の在任中に、米国とバチカンの間で最初の大使が交換された。彼はまた、暗殺未遂で致命傷を受け、生き延びた（黙示録 13:3）。

### イスラム勢力

イスラム世界が爆発的に世間に知られるようになったのは、これとほぼ同時期である！ イスラム・パワーの復活は 1970 年代初頭に始まった。 1979 年までには、世界の大国としての強さが証明された：

1972 年に石油価格が高騰したことがすべての始まりだった。

1979 年にイランの国王が退位すると、ホメイニ師によって急進的な国家が樹立された。これによってイスラム内の暴力的な要素が強化された。それが“イラン革命”の始まりである。それ以来、大胆な破壊活動や暴力的な戦争が頻発するようになった。

イランは国王による立憲君主制から、アヤトラの支配する民衆神権的なイスラム共和制へと変貌した。イスラムが多数を占める他の国々も、公の場に姿を現した！

石油価格の高騰は 1977 年から 2007 年にかけても起こった。この時期、イスラム教の普及に巨額の資金が投入され始めた。モスクや“文化センター”を建設し、イスラム教を広めるための積極的な地政学的な動きに 900 億ドルが投じられた。何百ものイスラム組織が生まれた。その多くは、メンバーにシャリア法を課そうとした。この法律とそれを確立しようとする動きは、その目的を達成する手段として暴力を公然ともたらした。そこからジハードが生まれ、テロリズムに満ちた世界が生まれた。イスラム教を平和的なものに塗り替えようとする大きな努力がなされている。しかし、それは失敗に終わ



るだろう。それは聖書の“南“(ダニエル 11:40)からきている。

これらの変化はすべて、地球の最終的な動きをもたらすために、イシュマエルの子孫が神から許された復活を遂げることにほかならない：

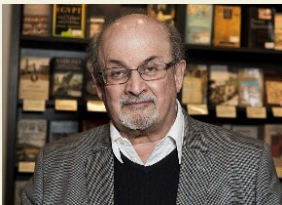
1928年 ムスリム同胞団が始まり、恐るべきイスラム組織へと変貌した。

1929年 カトリック教会と国家が統一され、獣の傷が癒え始まる。

1978年 法王教はヨハネ・パウロ二世の選出によって地政学的に強化された。この年は、災いの急増が始まった年でもあり、これらのことが一斉に起こり始めると、すべてが一代で終わるというキリストの預言が成就した年でもあった。

1979年 イスラム世界は石油から資金を急増させ、世界を支配しようとする活動家の計画を誘発した。ホメイニ師によるイラン革命が始まり、イラン国王が退位した年である。

## イスラム教徒に対する世界の反応



1988年、イギリス系インド人の小説家が『悪魔の詩』を執筆した際、同作者に対する殺人的憎悪から、イスラム教徒の意図に対する深刻な懸念が高まり始めた。1989年になると、イランのホメイニ師からの殺害予告も始まった。世界中に不安感が広がった。長い間、ラシュディは身を隠していた。

2005年、デンマークの新聞『ユランズ・ポスター』がムハンマドの高潔さを疑問視する一連の漫画を掲載した。多くのイスラム諸国で暴力が勃発し、多数の死者が出た。新聞社に対してジハードが呼びかけられ、11のイスラム諸国が新聞社に正式な謝罪を求めるという国際的な事件が起こった。これは激しい抵抗の末、2006年1月ようやく実現した。その後、芸術家クルト・ヴェスターガードに対して殺害予告がなされた。彼は身を隠さなければならなかった(2007年1月、スーダンの斧を振り回すイスラム教徒が彼を殺そうとしたが、失敗に終わった)。再び、イスラムに対する国際的な嫌悪感が煽られ、イスラムに対する不安感が強まった。

ジェノサイド・キャンペーン (1915～1923年)

で150万人が殺害されたオスマン帝国(トルコ)から、過去20年間で200万人のキリスト教徒が死亡したと推定される現代のスーダンまで、イスラム教は暴力的で絶え間ない力を発揮してきた[10]。戦争と殺人のイメージはいたるところにあるが、メディアの報道では脇に置かれている！

ナイジェリアの同様の統計は、アムネスティ・インターナショナルによって集計されている。彼らは過去20年間に、主に同国北部のシャリア法の下で運営されている13の州で、200万人(ほとんどがキリスト教徒)が殺害されたと見積もっている。

しかしまたしても、自由主義世界のリベラル・メディアには親イスラム感情が蔓延している。

9.11の後、アメリカへの恐ろしいテロ攻撃とイスラム教との関係が明らかになり、反イスラム精神がアメリカに蔓延した。しかし、ブッシュ政権が推進した「ほとんどのイスラム教徒」の「平和を愛する」姿勢は、その恐怖の多くを和らげた。2010年9月16日、ボストンのウェルズリー中学校の子供たちは、ボストン・イスラム協会の文化センターに見学に行き、アッラーに祈りを捧げるよう求められた。その後、カリフォルニア州の学校では、指定された日に子どもたちにイスラム教徒の格好をさせ、その宗教について学ぶことを義務付けたほどである。

保護者の訴えは、第9巡回控訴裁判所によって、この授業は「文化教育」に過ぎないという理由で却下された。サブリミナルな恐怖の精神は、アメリカの司法制度にさえ忍び寄った。真実や現実、自由を守ることを犠牲にして、なだめる必要性が蔓延したのだ。これは、いかなる国家的自己利益に対しても、合理的でも融和的でもない！

「親切」で「補完的」であることが敵意に終止符を打つと盲目的に思い込んでいる「進歩的」精神がある。しばしば、キリスト教徒に対する司法的・政治的憎悪が高まると、イスラム教徒に対する平和的なジェスチャーは不適切にクレッシェンドし、彼らの攻撃性を強める。福音派の世界でさえ、アッラーとキリスト教の神は同じであると主張することがキリストの義務であると考える者が少なくない！

2008年、138人の著名なイスラム指導者たちが、アメリカのカトリックとキリスト教のコミュニティに向けて「アメリカとあなたの共通の言葉」という書簡を書いたとき、イスラム教の平和的な性質が賛美された。イエール大学神学部信仰文化センターの学者たちによって、”A Loving God and

Neighbors Together”（愛する神と隣人を共に）という返信が起草された。著名なキリスト教指導者300人がこの文書に署名した。その文書の中で、彼らは再びアッラーをキリスト教の神と同一視した。三位一体の神というキリスト教の信仰は否定され、コーランの一神教の信仰（スラ 3:64）には誰も言及しなかった。

リック・ウォレン、ビル・ハイベルズ、ブライアン・マクラーレンを含む指導者たちは、慈悲深き御方（アッラーに対するイスラム教の表現）の赦しを求めた。彼らはまた、ムハンマドが預言者であることを認めた。



預言は、イスラム世界の抵抗は、あからさまな対立にまで高まるだろうと明言している。2009年11月、パット・ロバーソンは自身の番組『The 700 Club』でこう指摘した：

「イスラムとは -- イスラム教は暴力的であると言おうとしたが... 宗教ではなく、政治体制であり、世界政府の転覆と世界征服を企む暴力的な政治体制だ。共産党の党员やファシスト（極右団体）のメンバーを扱うように、その信奉者をそのように扱うべきだと思う」。 <http://motorcityliberal.blogspot.com/2009/11/pat-robertson-islam-isnt-religion-treat.html>



イスラム教徒によるテロが増加するという暗黙の恐怖が、いまや公然のものとなった。しかし、メディア、政治家、福音派の指導者たちは、イスラム教への「批判」

に対して声を上げる。彼らはイエスへの信仰を捨て、今はイスラムの力を恐れているように見える！したがってイスラムは、自分たちの本当の姿を“貶める”ような人物との戦いにますます勝利しているのだ。

## 世界三大宗教



シンボルは太陽

第1日 **日曜日** 礼拝

反キリスト教 ローマ

新エルサレム  
靈的世界的



第7日 **土曜日** 礼拝  
安息日

ユダヤ教



シンボルは月と星

第6日 **金曜日** 礼拝

イスラム教 メッカ

真のイスラエル  
(ユダヤ人+異邦人で構成)



# 創世記 1 章の研究

砂川 満

## 編集者の前書き：

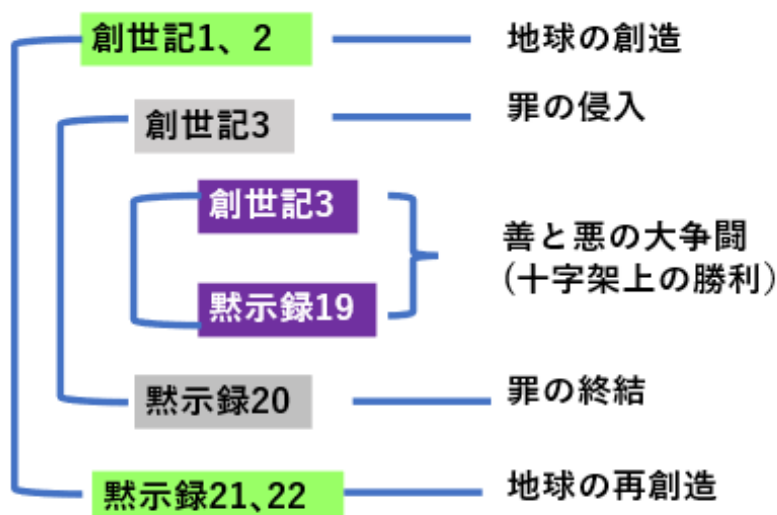
聖書には 66 巻ありますが、その最初は創世記。最後はヨハネの黙示録である。最初の創世記が理解できないと最後の黙示録も理解できないでしょう。創世記に天地創造の始まりが書いてあり、黙示録には新天新地の再創造が書いてある。創世記には神が完ぺきな世界を創造されたことが書いてある。黙示録では、人間がこの世界を破壊していく。「地を滅ぼす者どもを滅ぼして下さる時がきました」黙 11:18。

黙示録 21:1 わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった…… 21:5 すると、御座にいますかたが言われた、「見よ、わたしはすべてのものを新たにする」。

黙示録にも様々な解釈があるように、創世記の始めにも様々な解釈がある。

今回は、私にとっても非常にいい助けになった研究があるので、それを皆さんに紹介したい。それは、砂川満さんが YouTube でやっている「英語で学ぶ聖書」というものである。彼は主に英語欽定訳を用いているが、日本語に訳するとき、いろんな訳がある。すでに日本語に訳されているが、難解なところがあるので、英語でも日本語でもいろいろな訳を紹介している。原語から訳されたもので一番正確なものは、英語欽定訳と言われている。カトリックの学者もそう言っている（だからカトリックでは欽定訳が嫌われているそうだ）。E.G. ホワイトは欽定訳を用いられた。他の訳を用いたときには、欽定訳の意味を変えない限り、表現がいいと思うときに用いられた（5%）。95%は欽定訳を用いられた。

## 創世記前半と黙示録後半の比較(カイヤズマ=交差対句法)



砂川さんは、創世記1章を逐次説明している。「英語で学ぶ」の初めから読者の皆さんが英語を学びながらご覧になることをお勧めしたいが、今回は、私ばかりでなく、多くの人が疑問に思っていることに飛躍して、いきなり「光」について説明してもらいます。

---

## 砂川さんの YouTube の説明文：

### YouTube # 9 創造週の第1日目 創世記 1:3-5

早速、創世記1章の3節から5節を読んでいきたいと思います。

口語訳聖書でお読みします。

「神は『光あれ』と言われた。すると光があった。神はその光を見て、良しとされた。神はその光と闇とを分けられた。神は光を昼と名づけ、闇を夜と名づけられた。夕となり、また朝となった。第1日である」。

最初に断っておきますが、今回は日本語の聖書だけでも十分に正しい理解が得られると思います。とりあえず見ていきましょう。

「光が出てくるように」と神が言われると、光が現れました。神が光をご覧になると、それはそれは良くて、神はその光と闇とを二（等）分されました。

きわめて簡潔に書かれていますが、実はここで様々なことが起こっているんです。

当初の地球 (the earth) は形がなく、からっぽで、深い闇に覆われた、ブラックホールのような状態であったと前回申し上げましたね。

聖書に明記されていないので、恐らくなのですが、第1日目の光に照らされた瞬間、地球は現在のような球体 (sphere) になったと思われる。

そもそも神のご命令によって現れた光は、ブラックホールのような地球に向けられたものでした。

物体に光が当たると、光が当たった部分は明るくなりますね。

しかしその光がひとつで、ひとつの方向から照らされている場合、物体には光の当たらない部分ができ、その部分は暗いままです。

光が当たる部分と当たらない部分がちょうど半分ずつになる形は、球体 (sphere) だけではないでしょうか？

また、形のないブラックホールのままだと、光そのものが吸収されてしまうと聞いたことがあります。

さらに、光が当たって球体という形ができるや否や、地球は回転を始めたと思われます。自転の開始です。この瞬間から地球は、時を刻み始めます。

現在に至るまで私たちの生活の中核を占めている時間は、この瞬間に始まり、文字通りの地球となったこの星が1回転して、1日という時間の単位が確立されたわけです。

神ご自身の命令によって光が現れ、その光に照らされて the earth(地球) は球体 (sphere) となり、回転を始めて一定の時を刻み始めたのでした。その一連の様子をご覧になり、神は (英語だと) "Good!" と言われたのではないのでしょうか？

日本語の少しくだけた言い方だと「いいねー！」

関西風だと「ええなー！」

九州だったら「よか！」

沖縄調なら「ジョートー！（上等）」といった具合ですかね。

ここからは補足になります。

光が当たる部分と当たらない部分がちょうど半分ずつになる物体の形は球体だけではないかと述べましたが、場合によっては他の形 (卵形等?) でも、明るい部分と暗い部分が均等に二分されることがあるかもしれませんが、その物体が絶えず回転しているなら話は別です。光の当たる位置や角度が変われば、均等に当たらなくなる場合がありますはずです。

さらに、地球は今日に至るまで球体なわけですから、創造の第1日目からその形も大きさも変わらず保たれていると考えるほうが無難なのではないでしょうか？

1日は24時間、1時間は60分、1分は60秒といった細かい時間の単位が作られたのは、もっとずっと後の時代だったと思うのですが (専門家では



ないので定かではないですが)、現在も変わらず刻み続けている時間の基準は、地球が1回転した第1日目に確立されたわけです。

最後に「ヨハネによる福音書」1章の5節を、やはり口語訳聖書からお読みします。

光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。

## YouTube #10 暗闇の中に輝く光とは？ ヨハネ 1:1-5

創造の第1日目に神が「光あれ」と言われると、光が現れました。その光に照らされるや否や、地球は球体 (sphere) となり、自転を始めたのでした。

では、第1日目に現れた光は、何だったのでしょうか？地球を明るく照らした光について初めて尋ねられた人のほとんどは、「太陽 (the sun)」と答えるのではないのでしょうか？しかし、読み進めていくと、太陽は創造の第4日目に造られたことが分かります。

第4日目については別の回で詳しくやりたいと考えているので、今回は16節だけを口語訳聖書でお読みします。

**創世記 1章 16節** 神は二つの大きな光を造り、大きい光に昼をつかさどらせ、小さい光に夜をつかさどらせ、また星を造られた。

もうひとつ聖句を読みませぬ。詩篇 136 篇の7-9節です。

大いなる光を造られた者に感謝せよ。そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。昼をつかさどらすために日 (太陽) を造られた者に感謝せよ。そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。夜をつかさどらすために月と、もろもろの星とを造られた者に感謝せよ。そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。

これらの聖句から、太陽や月などが造られたのが創造週の第4日目であったことは明らかです。

**最初の質問ですが、第1日目に神のご命令によって現れた光が太陽でなかったとしたら、一体何だったので**

## しょう？

ヒントはなんと新約聖書にありました。早速見ていきましょう。

「ヨハネによる福音書」1章です。

まずは1節から3節を口語訳聖書でお読みします。

初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は初めに神と共にあった。すべてのものは、これによってできた。できたものうち、ひとつとしてこれによらないものはなかった。この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。

この聖句は、創世記1章の1節を彷彿 (ほうふつ) させますね。

「ヨハネによる福音書」1章の1節と2節を、Today's English Version (現代英語訳) で読んでみたいと思います。「In the beginning the Word already existed, The Word was with God, and the Word was God. 「始めに言は既に存在しておられた。言は神と共におられ、言は神であられた」。

「ヨハネによる福音書」1章の始めに登場する言 (the Word) は、最初から神と共におられる神であると書かれていますね。英語では He とか Him といった代名詞で表記されている言は、イエス・キリスト以外に誰が当てはまるのでしょうか？1章をずっと読み進めていくと、言 (the Word) がイエス・キリストであることは明らかです。

続けて、「ヨハネによる福音書」1章の4節を先ほどの現代英語訳聖書でお読みします。

言は命の源であり、この命が人々に光をもたらした。

「ヨハネによる福音書」の別の箇所、イエスはご自分のことを「世の光 (the Light of the world)」と称しておられます (8:12)。また14章の6節において、

「私は道であり、真理であり、命である」 (I am the way, the truth, and the life) と言っておられます。

続けて、「ヨハネによる福音書」1章の5節を、新共同訳聖書でお読みします。

光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しな

かった。

個人的には、口語訳聖書の「闇はこれ（光）に勝たなかった」との表現が好きなのですが、「闇は光を理解しなかった」あるいは「闇は光を認めなかった」と解するほうがより適切なようです。

創造週の第1日目、真っ暗な宇宙に神の言葉を受けて現れ、地球を照らした光は、言であり、神であり、命の源であり、光であられるお方から直接放たれた光だったのではないのでしょうか？

この見解については、驚く方や、様々な異論が出ることが予想されます。私自身もまだまだ探求中ですし、皆さんも自分で聖書を開き、調べ続けてはいるかがでしょうか？

あと二つだけ聖句を紹介させてください：

ヨハネ第一の手紙1章の5節「私たちがイエスから聞いて、あなたがたに伝えるおとずれは、こうである。神は光であって、神には少しの暗いところもない」。

次にヨハネの黙示録22章の5節「夜は、もはやない。あかりも太陽の光も要らない。主なる神が彼らを照らし、そして彼らは世々限りなく支配する」。

## YouTube # 12 英語で学ぶ聖書 12

天文学の基礎を学ぼうー創造週の第4日目パート1

これから数回に分けて、創造週の第4日目を研究していきたくて考えています。

早速、創世記1章の14節と15節を読みますね。口語訳聖書でお読みします。

神はまた言われた。「天の大空に光があって昼と夜とを分け、しるしのため、季節のため、日のため、年のためになり、天の大空にあって地を照らす光となれ」。そのようになった。

第1日目に神が発せられた最初の言葉をおぼえていますか？

「光あれ (Let there be light)」でしたね。

第4日目も同じ言葉で始まっていますね。しかしよく見ると、Let there be lights…となっています。

お分かりですね。光を意味する light に S がつい

て複数形 (lights) になっているんです。

つまり第1日目と違って、第4日目に現れた光は、ひとつではないということです。結論を言うと、その日に太陽と月と星が造られました。16節以降を読めば明らかですが、今回はそのことを踏まえて14節に焦点を当ててみたいと思います。

「神はまた言われた。Let there be lights in the firmament of the heavens 天の大空に（複数の）光が現れよ。To divide the day from the night. 昼と夜とを分けるために。And let them be for signs, and for seasons, and for days and years. そしてそれらをしるしと季節と日と年のためとならせよ。」

太陽と月が造られて、それぞれ昼と夜に姿を現し、太陽が出ている間は昼、月が出ている間は夜（月が昼間出ることもあります）というふうに定められたわけですね。3日目まで夜間は真っ暗だったと思われませんが、4日目からは、月や星々が夜空を彩るようになりました。

では、「しるしと季節と日と年のため」とはどういう意味でしょう？

「しるし」とは、時間・時刻を示すためのしるしまたは指標のこと、つまり目印ですね。かつては太陽や月や星の位置、動きによって時を知ったわけです。

「日」とは24時間からなる1日のことです。天文学的には、地球が1回転（自転）する時間のことですが、聖書の1日は太陽が沈んでから次の日に太陽が沈むまで、つまり日没から日没まででした。

「年」とは1年のことであり、天文学的には地球が太陽のまわりを1周（公転）する時間のことですが、古代イスラエル人は、月の動き（満ち欠け）で1年を計算していたようです。ご存じのように、1か月とは月が地球のまわりを1周（公転）する時間のことですが、そのひと月を12集めても天文学的1年とは少しずれるので、数年にいちどは1年を13か月として帳尻を合わせていたようです。

「季節」と言えば、四季つまり春夏秋冬が思い浮かびますね。しかし、少なくとも創造から1656年後の洪水までは、今日のような季節の変化はなかったと思われます。恐らくは当初大気圏を覆っていた水の層のおかげで、地球全体にわたりちょうどいい温室状態が保たれていたのでしょう。



では「季節のため」とは、どういうことでしょうか？

ここで述べられている「季節」とは、ずばり聖書の祭りのことです。ごくごく簡単に説明しますと、旧約聖書には神によって定められた毎年めぐってくる祭り、祝祭日のことが記されています。今日ではユダヤの祭りと呼ばれています。これらの祭りの日は、おもに月の満ち欠けによって定められていました。故にここでも月が地球のまわりを回る動きが重要になってくるわけです。新月から新月までのひとつ月が基準となっていました。

いかがでしたか？創造の第4日目を簡単に学んできましたが、理解が少しでも深まれば幸いです。

最後に、詩篇 19 篇の 1 節から 4 節の途中までをお読みします。

「もろもろの天は神の栄光を告げ知らせ、大空はみ手のわざを示す。日に日に言葉を発し、夜な夜な知識をあらわす。(実際に) 言葉を語っているわけでもなく、声が聞こえるわけでもないのに…その響きは全地を行きめぐり、その言葉は世の果てにまで及ぶ」。

## YouTube # 13 英語で学ぶ聖書

天文学の基礎を学ぼう—創造週の第四日目パート II

早速、創世記 1 章 16 節から 19 節を、今回も口語訳聖書でお読みします。

神は二つの大きな光を造り、大きい光に昼をつかさどらせ、小さい光に夜をつかさどらせ、また星を造られた。神はこれらを天の大空に置いて地を照らさせ、昼と夜とをつかさどらせ、光と闇とを分けさせられた。神は見て、良しとされた。夕となり、また朝となった。第4日目である。

私たちの星、地球の外には無限とも思われるほどの広大な宇宙が広がっています。その宇宙は一般に、観測可能な宇宙 (observable universe) と呼ばれています。ご存じのように人類にとっては、ロケットに乗って大気圏外に出るだけでも大変な労力を要するわけですが、近年の技術により、何億、何十億光年も先まで観測できるようになりました。

「観測可能な宇宙」について、ウィキペディアには次のような説明が載っています。

ビッグバン宇宙論でいう観測可能な宇宙

(observable universe) とは、中心にいる観測者が領域内の物体を十分に観測できるほど小さい、つまり、ビッグバン以後のどの時点でその物体から放出された信号であっても、それが光速で進んで、現在の観測者のもとに届くまでに十分な時間があるような球状の領域である。…

一見分かりにくいですが、この説明の前提にあるのが、ビッグバン宇宙論、つまり聖書とは相容れない宇宙の起源説です。ここでいう観測者とは地球のことであり、地球から最も遠い星や銀河の距離を参考に、宇宙の大きさや年齢を決めているんです。

もちろん、有限な人類には観測不可能な地域も存在するでしょうから、まさにこの宇宙は無限と思えるほど広大なわけですね。

創世記に戻ります。1 章の 16 節を日本語で読むと、「神は二つの大きな光を造り」と言っておきながら、「大きい光に昼をつかさどらせ、小さい光に夜をつかさどらせ…」とあります。ちょっとわかりにくいとは思いませんか？

創世記 1 章の 16 節で述べられている二つの大きな光とは何のことでしょうか？地球から見て最も大きい二つの天体—それらは言うまでもなく太陽と月のことです。16 節の続きを英語で読むと、次のように書かれています。

…the greater light to rule the day, and the lesser light to rule the night.

地球から見て、太陽と月の大きさはほぼ同じです。16 節の the greater light (より大きな、またはより多い光) そして the lesser light (より劣った光) とは、光の程度の多い少ないについて述べているんです。光度すなわち光源の明るさの度合いが大きいほうを「(より) 大きい光」光度の小さいほうを「(より) 小さい光」と呼んでいるわけです。

16 節の最後には「また星を造られた」とありますが、英文は、He made the stars also. となっています。言うまでもなく、数えきれないほどの星々が造られたようすが、この一文におさめられているんですね。

聖書によると、神は、この地球が属する太陽系のみならず、人間の目に無数にあると思われるすべての天体を、第4日目にお造りになりました。

最後に、詩篇 136 篇の 7 節から 9 節を読みたいと思います。

(Give thanks) To Him who made the great lights, For His mercies endures forever.

(複数の) 大いなる光を造られたお方に感謝を捧げよ。その慈しみは永遠に続くのだから。

昼をつかさどらせるために太陽を造られたお方に。その慈しみは永遠に続くのだから。

夜をつかさどらせるために月と星々を造られたお方に。その慈しみは永遠に続くのだから。

想像を絶するほど広大な宇宙の天体を、すべて一日で造られた神の偉大な力を思うとき、心は自然と感謝と賛美の念で満たされます。そしてこのような感謝と賛美が心からあふれ出るとき、私たちは心も体もますます健康な者となり、さらに幸福な人生を送ることができるようになるのです。

*Testimonies to the Ministers and Gospel Workers*

TOPIC

## 「牧師たちと福音宣伝者たちへの証」 「聖霊に導かれて」上 p 134 より

金城 重博



※この本は、1888 年ミネアポリス世界総会で開催された指導者への勧告であった。わが教会は「天から与えられた最も尊いメッセージ」を拒んだ。

「聖書の学びのためにもっと時間を取りましょう。私たちは当然理解すべきほどには、み言葉を理解していません。黙示録は、その中に含まれている教えを理解するようと言う、私たちへの勧告を持っています。『この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわい(祝福される)である。時が近づいているからである』(黙示録 1:3) と神は告げておられます。一つの民として私たちが、この書が私たちにとって何を意味するかを理解する時、私たちの間に大きなリバイバルが見られるでしょう。この書を探究し学ぶように、という指示が私たちに与えられているにもかかわらず、この書が教えている教訓を、私たちはまだ十分に理解していません。

ん。

過去においてかつて教師たちは、ダニエル書と黙示録は封印された書物であると宣言し、民衆はそれらから遠ざかってきました。神秘のベールが多くの人々を遠ざけてきたため、神ご自身の御手がこれらの部分から遠ざかってしまったのです。「啓示」という名前そのものが、封印された書物であるという記述と矛盾しています。「啓示(英文)黙示録」とは、重要なことが明らかにされるという意味です。この書の真理は、終末時代に住んでいる人々に宛てられたものです。私たちは、神聖な事物の聖なる場所にある開かれたベールの側に、立っているのです。不注意で不敬虔な思いや、性急な足取りではなく、畏敬の念と敬虔な畏れをもって中に入るべきです。黙示録の預言が成就すべき時が近づいています。...

私たちは神の戒めと、預言の霊であるイエス・キリストの証し即ち、預言の霊とを持っています。高価な宝石が神の言葉の中に見出されなければなりません。このみ言葉を探求する者は、頭脳を明晰にし



ていなければなりません。食べたり飲んだりするときに、決して倒錯した食欲にふけてはなりません。飲食によって歪められた食欲にふけるべきではありません。

暴飲暴食にふけるならば、頭脳は混乱します。そのような人たちは、この地上歴史の最後の場面に関連するこれらの事柄の意味を見出すために、深く掘り下げる骨の折れる作業に耐えられないでしょう。

ダニエル書と黙示録がよりよく理解されるならば、信者たちは全く異なる宗教経験を持つようになるでしょう。 彼らは、こころの清い人たちへの報いとなるべき祝福を理解するために、すべての人が育てなければならぬ品性が心と魂に深く刻みつけられるような天の開かれた門の光景をかいま見るでしょう。…

黙示録の意味学びから確実に理解される一つのことは、神と神との間の結びつきは親密で決定的なものであるということです。

天の宇宙とこの世界との間には素晴らしい結びつきが見られます。ダニエルに啓示された事柄が、パトモス島のヨハネに宛てられた黙示録によって後に補足されました。 これらの二つの書物は、注意深く研究されなければなりません。二度にわたりダニエルは、終わりの時までどれほどの時間があるのかと聞きました。

※ダニエル書に、二度質問した箇所はここにしか見られない。ダニエル 8:13 には一度の質問がある。答えは 8:14 の幻「2300 の夕と朝」。この幻はヘブル語で「マレー」で、聖所が清められて回復することに関する幻。最終時代に起こる事件—善と悪の大争闘は「ハーゾーン」の幻で、終わりの時の終わりの時「エス・ケッツ」については、ダニエル 12 章に「結末」はダニエルに理解されなかった。これからの未来の預言期間のことである。

「わたしはこれを聞いたけれども悟れなかった。わたしは言った、『わが主よ、これらの事の結末はどんなでしょうか』。彼は言った、『ダニエルよ、あなたの道を行きなさい。この言葉は終りの時まで秘し、かつ封じておかれます。 多くの者は、自分を清め、自分を白くし、かつ練られるでしょう。しかし、悪い者は悪い事をおこない、ひとりも悟ることはないが、賢い者は悟るでしょう。常供の燔祭が

取り除かれ、荒す憎むべきものが立てられる時から、千二百九十日が定められている。待っていて千三百三十五日に至る者はさいわいです』。しかし、終りまであなたの道を行きなさい。あなたは休みに入り、定められた日の終りに立って、あなたの分を受けるでしょう」(ダニエル 12:8 ~ 12)。…

※今、預言の研究者たちによって従来の過去適用から近未来の適用に見直されている。

不法の秘密の力が何であるかを注意深く探る知恵を皆必要としています。…私たちが住んでいるまさにこの時代において、主はご自身の民を召され、担うべき使命を彼らにお与えになりました。日曜休業令を特有の権力を示すしとし、時と律法とを変えようとたくらみ、更に、主に聖なるものとして、創造の安息日を唯一の真の安息日として遵守することによって神を崇めようと固く立っている神の民を迫害する、不法の者(罪の人—英文)の悪を暴露するために、主は彼らを召されました。

※ローマ法王教のことを暴露するように、我々は召されている、三天使の使命が我々の働きである。大争闘下 376 参照。

私たちは最終時代の危機の中にいます。私たちの働きによって、その危機について私たちは人々に警告を与えなければなりません。預言が啓示した厳粛な場面に触れないまま放置してはなりません。 もし私たちの民が半ばでも目覚めており、黙示録に描かれた出来事が間近に迫っていると自覚しているならば、私たちの教会の中に改革が起こり、もっと多くの人々がこのメッセージを信じるようになるでしょう」…。

## まとめと：

### ダニエル書・黙示録がよく理解される：

1. 大リバイバルが見られる 134 頁
2. 信者は全く異なる経験を持つ 135 頁
3. 教会に大きな変革をもたらす 141 頁
4. 多くの者が信じるようになる 141 頁





## 歴史と聖書の預言

各時代の大争闘 E・G・ホワイト

1冊で 950円/冊  
 10冊以上で 850円/冊  
 50冊以上で 650円/冊  
 100冊以上で 500円/冊

商品番号:B20-4 A5サイズ

「各時代の争闘」の再版で、カラーの写真、絵入りの、読みやすい新しいレイアウトです。現代の真理の書籍中、最も重要なこの本を至るところで秋の木の葉のように散らしましょう。あらゆる欺瞞の中にある現代人に正しい識別力を与え真の希望を与える必読の書。

## 讃美歌集&CD 契約の虹

讃美歌 160 選



商品番号:B70-1 A5サイズ、歌集 1,600 円  
 :C70-1 CD8枚組 4,000 円  
 :BC70-1 歌集&CDセット 5,000 円

日本基督教団讃美歌、聖歌、リバイバル聖歌、他から160曲を選びました。音程が高い調は低くして歌いやすくしています。全160曲を収録した音楽CDもあります。

## まんが聖書大旅行

デビット・キム



史実にもとづく資料を取り入れた聖書物語まんが。12巻セット。オールカラープリント

11,760 円

商品番号:B42-28 A5サイズ、12巻セット



チャンネル登録をしていただくと最新の動画の通知が届きます。ぜひご利用ください。



サンライズミニストリーチャンネル  
 礼拝説教の字幕動画や時事ニュース、セミナー、ドキュメンタリー動画など聖書に関連した動画を多数配信



サンライズ今帰仁教会安息日ライブチャンネル  
 毎週土曜日午前10時より聖書研究と説教メッセージをYouTubeライブ放送中。



サンライズミニストリー讃美歌専門チャンネル  
 讃美歌、その他音楽プログラムを配信中。



サンライズミニストリー子どもチャンネル  
 子ども向けの聖書のお話しや子どもさんびか、動物の話などを配信中。



オンラインストアも  
 ご活用ください！



www.sunriseministry.shop